動画ファイルソフトウェア　for MAV

取り扱い説明書

第５版　1.0.7.1	2005 年 5 月

武蔵株式会社

１．概要 3
１－１．機能一覧 3
１－２．カテゴリ，ページ，クリップ 4
１－３．クリップと MAV の VFL 4
１－４．BLACK ファイルについて 4
２．システム構成と接続 5
２－１．システム構成 5
２－２．接続 7
３．起動，終了方法 8
４．操作画面 9
４－１．操作画面全体 9
４－２．メインメニュー 10
４－３．ステータスエリア 10
４－４．ライブエリア 11
４－５．プレビューエリア 13
４－６．カテゴリエリア 16
４－７．素材エリア 17
５．環境設定 19
５－１．MAV 設定 19
５－２．ポート設定 20
５－３．収録設定 21
５－４．編集設定 23
５－５．送出設定 25
５－６．ファンクションキー設定 27
５－７．リモコンキー設定 28
６．カテゴリの新規作成と管理 30
６－１．カテゴリの新規作成 30
６－２．カテゴリの管理 31
６－３．カテゴリ名の変更 32
６－４．ページ名の変更 32
７．手動収録 33
７－１．収録の開始と停止 33
８．ライブ指定モード 35
８－１．ライブ指定モードへの移行 36
８－２．ライブ指定モードでのシーン登録 36
８－３．ライブ指定モードクリップの修正 38

８－４．登録されたクリップの表示 40
９．カテゴリエリア，素材エリア 41
９－１．カテゴリの切り替え 41
９－２．クリップの修正 42
９－３．V，KEY 結合処理 45
９－４．クリップの削除 47
９－５．クリップの移動 49
９－６．時刻指定クリップ 50
１０．ポンだしモード 55
１０－１．ポンだしモードへの移行 55
１０－２．V，KEY クリップの同期再生 58
１０－３．クリップの単独再生 60
１０－４．コントロールパネル 62
１１．P1／P2 送出パネル 63
１２．編集エリアとハイライト送出 68
１２－１．編集エリアへのクリップ登録 68
１２－２．カット間の効果設定 69
１２－３．クリップの挿入 70
１２－４．編集エリアのプレビューとトリミング 71
１２－５．Edit File，Original File の切り替え 73
１２－６．編集済み素材として保存 74
１２－７．編集エリアからの送出 75
１２－８．編集エリアでのスプリット編集 77
１２－９．編集エリアでのクリップ分割 85
１３．VTR 収録 86
１３－１．VTR 収録モードへの移行 86
１３－２．収録データの編集 88
１３－３．収録の開始と終了 88
１３－４．収録リストフォーマット 90
１５．管理者モード 91
１６．MAV 素材管理 93
１７．MDC-100 外観 95
１８．MDC-５０T 96
１９．データフォルダ 99
１９－１．データフォルダ 99
２０．MAV メニュー設定 100

１．概要

本取り扱い説明書は、「動画ファイルソフトウェア for MAV」の操作方法について説明します。

MAV-777／555 に収録されている V，KEY 素材を MAV の 2 ポートで同期再生または単独再生して、動画ファイルとして送出する Windows アプリケーションです。
PC に内蔵したキャプチャーボードでキャプチャーされたサムネイルを操作することで、シーンの編集，動画ファイルのポンだし送出等を行なうことができます。

※MAV-777／555 は「MAV」と表記します。

１－１．機能一覧

■収録機能

手動収録，VTR 収録が行なえます。
手動収録はライブ映像を収録することが主な目的で、ポートごとに収録時間設定が可能です。
VTR 収録は番組内で使用する撮りきり素材，CG 素材等を収録することが主な目的で、MAV に接続された VTR を制御することによりフレーム単位精度で収録することができます。

■クリップ作成，プレイリスト作成機能

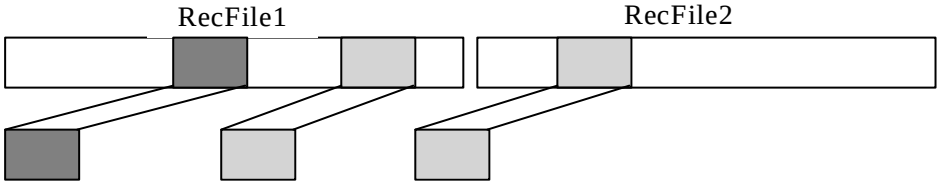
収録中，収録済み素材からシーンを切り出してトリミングを行ない、V，KEY 素材を作成したり、撮りきり素材を複数つなげたプレイリストを作成することができます。

１－２．カテゴリ，ページ，クリップ

編集素材はカテゴリ，ページ，クリップという概念で管理します。
複数のカテゴリを作成することが可能で、カテゴリには 16 ページのページがあり、各ページには複数のクリップが登録できます。
カテゴリは Windows のフォルダにあたります。フォルダの中にさらにページフォルダがあり複数のクリップ（最大 40）が登録できます。

１－３．クリップと MAV の VFL

MAV には VFL（仮想ファイルリスト）という概念があります。
これは、収録されている（または収録中の）素材からシーンを切り出し、1 つのファイルとするものです。



送出用　VFL

本ソフトウェアではクリップ１つにつき１つの VFL を作成し、送出用に使用しています。
このように素材ファイルから新たなファイルを作りますが、ファイルの実体があるわけではなく、仮想的なファイルを作成しますので、元のファイルが消されない限りファイル領域を必要としません。

１－４．BLACK ファイルについて

本ソフトウェアではアプリケーションの終了時および PREV モードでクリップをクリアした場合に、“ @BLACK_FILE@ ”という黒映像を収録したファイルを P1, P2 ポートでロードします。
これは、MAV の AFT ULOAD メニューを PB にして送出時にファイルをロードし直す際に BLACK が出ないようにしますが、アプリ終了後やクリップクリア時に以前の STILL 映像が出たままになるのを防ぐためです。

誤ってこの@BLACK_FILE@を MAV 本体で削除した場合は、再度黒映像を収録して@BLACK_FILE@に Rename してください。

２．システム構成と接続

２－１．システム構成

本システムに必要な機器は以下の通りです。

■MAV-777／555（1in／3out ，2in／2out）

SONY 製ディスクレコーダーで 1in／3out ，2in／2out のどちらかの構成が必要です。各ポートの使用方法は次の通りです。

・R1　　：収録ポート 1
・R2　　：収録ポート 2（2in の場合）
・P1　　：V 送出ポート
・P2　　：KEY 送出ポート
・P3　　：編集ポート（3out の場合）

■ジョグリモコン

Contour 社製のジョグリモコンです。PC と USB で接続します。

■PC，ソフトウェア

PC 本体につきましては、最低限必要な性能は明記しませんが、次の環境で動作を確認しています。

・CPU　　：Pentium4（2.4GHz）
・メモリ　　：512MB
・HDD　　：80GB
・グラフィクス　　：SXGA（1280×1024）必須
・モニター　　：SXGA 表示が可能な機種　必須

その他、Ethernet ポート，USB ポートおよびカノープス製ビデオキャプチャーボード「Power Movie PCI」が必要です。
キャプチャーボードはアナログ映像信号入力となっています。MAV の各ポートの出力映像をアナログに変換して入力してください。
キャプチャーボードへの入力映像は以下の通りです。

・IN1　：R1
・IN2　：R2 または P3
・IN3　：P1
・IN4　：P2

■デバイスコントローラ MCI-50/60（オプション）

弊社製デバイスコントローラ「MCI-50/60」です。

MAV の P1，P2 を同期再生するためやシステムからのスタートタリーを受ける場合に必要になります。

■ショットボックス　MDC-100（オプション）

弊社製ショットボックス「MDC-100」です。

ショットボックスのキーを押すとことでキューアップ，プレイ，ストップ等の操作ができます。

■T-BAR 付き VTR リモコン　MDC-50T（オプション）

弊社製 VTR リモコン「MDC-50T」です。

編集および送出用に使用可能です。

２－２．接続

制御系のみ記述します。

■Ethernet

PC と MAV，MCI-50/60（または MDC-100）を LAN 接続します。

PC と MAV はステータスの取得, コマンドの送受信のために毎フレーム Ethernet で TCP 通信を行なっています。このため、インターネットや社内 LAN 接続とは切り離して運用してください。

■ジョグリモコン

ジョグリモコンと PC を USB ケーブルで接続します。

■9 ピンケーブル

MAV と MCI-50/60（MDC-100）を 9 ピンケーブルで接続します。

・CONT1　　：MAV の P1 ポート（9 ピンケーブル）

・CONT2　　：MAV の P2 ポート（9 ピンケーブル）

VTR 収録を行なう場合は、MAV-IN/OUT2（VTR2）と収録用の VTR を接続します。また VTR の TC OUT を MAV の System TC に入力します。

■GPI

システムからのスタートタリー等を MCI-50（MDC-100）の GPI コネクタに接続します。

■IEEE1394

VTR リモコン「MDC-50T」を使用する場合に PC に増設した IEEE1394 ボードに MDC-50T を接続します。

３．起動，終了方法

■電源の投入手順

- MAV の電源を投入します
- MCI-50/60（MDC-100）の電源を投入します
- PC の電源を投入します
- MDC-50T の電源を投入します（MDC-50T がある場合）
- 本アプリケーションを起動します

※MAV が起動したことと、MCI-50/60（MDC-100）の電源投入を確認してから PC の電源を投入してください。
起動時に MCI-50/60（MDC-100）の初期化と MAV の素材情報の取得を行います。

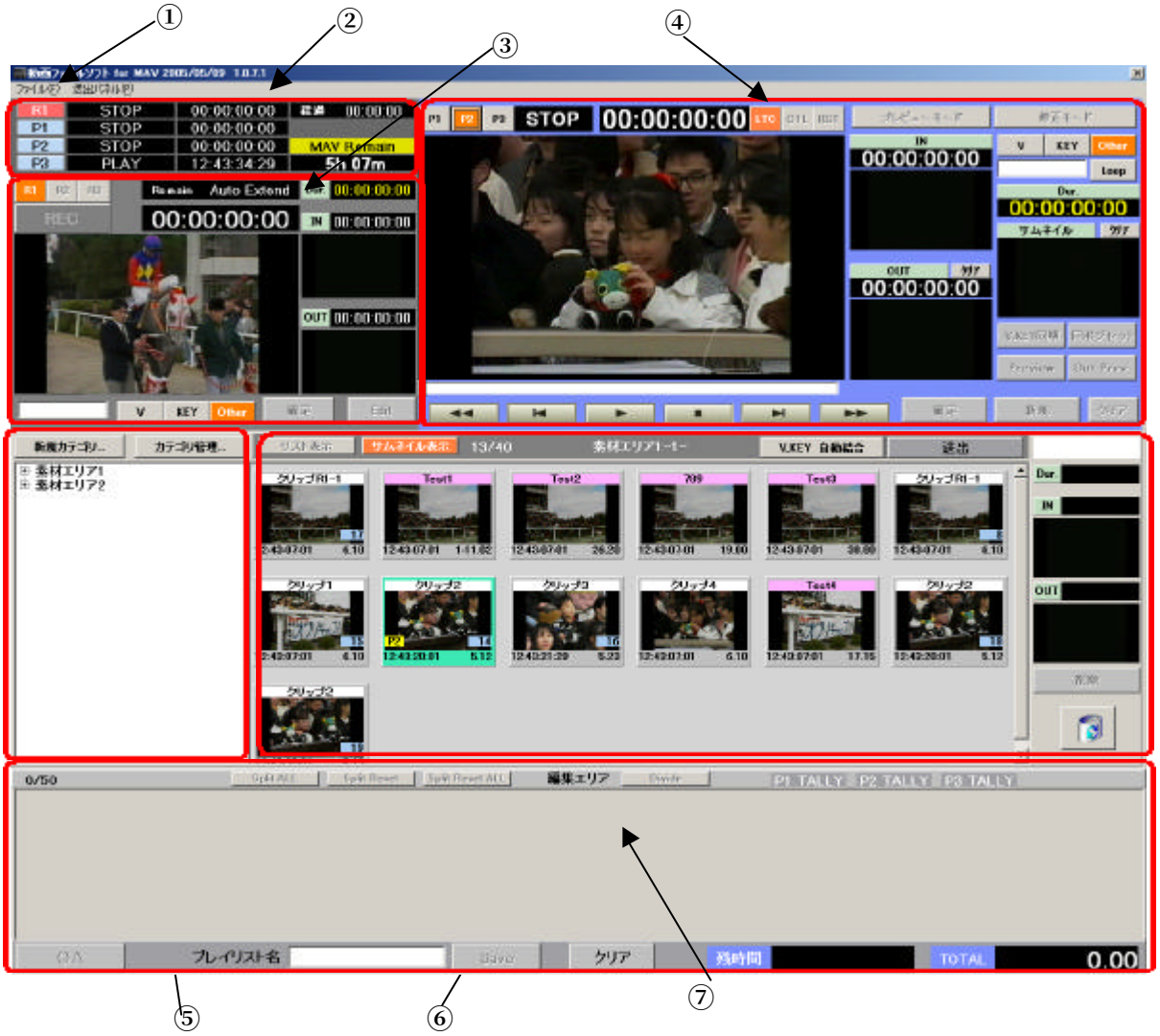
■電源の切断手順

- アプリケーションを終了し、Windows をシャットダウンします
- MDC-50T の電源を切断します（MDC-50T がある場合）
- PC の電源を切断します（自動切断の場合は必要ありません）
- MCI-50/60（MDC-100）の電源を切断します
- MAV の電源を切断します

※Windows がシャットダウンした後は、PC，MCI-50/60（MDC-100），MAV の電源切断はどのような順番でも構いません。

４．操作画面

４－１．操作画面全体



■各部の説明

①メインメニュー

ファイルメニューがあります。

②ステータスエリア

MAV の各ポートのステータスとタイムコードを表示します。

REC ポートの場合は収録経過時間も表示されます。

③ライブエリア

収録中のキャプチャー映像，タイムコード，サムネイルを表示します。

また収録中の素材からクリップを作成します。

④プレビューエリア

編集中のキャプチャー映像，タイムコード，サムネイルを表示します。

プレビューエリアでクリップのトリミングを行ないます。

⑤カテゴリエリア

登録されているカテゴリとクリップ情報をリスト表示します。

⑥素材エリア

表示しているカテゴリ内のクリップサムネイルを表示します。

⑦編集，送出エリア

複数のクリップを並べてカット編集を行なうエリアです。

また、このエリアから送出を行ないます。

４－２．メインメニュー

■ファイルメニュー

・VTR 収録　　：VTR 収録モードに移行します

・環境設定　　：運用パラメータを設定します

・素材管理　　：MAV 内のファイルの表示，削除等を行ないます

■送出パネルメニュー

・P1 送出パネル　：P1 送出パネルの表示／非表示を行います

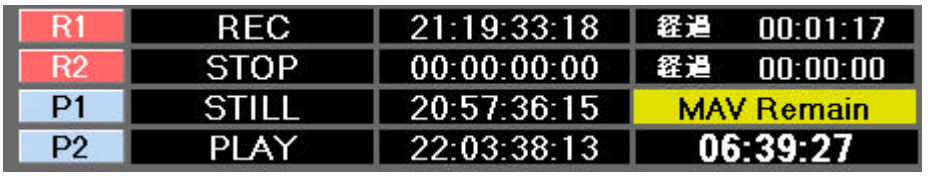
・P2 送出パネル　：P2 送出パネルの表示／非表示を行います

・MAV 時計表示　：MAV システム時計ウインドウの表示／非表示を行います

４－３．ステータスエリア

MAV の各ポートのステータスとタイムコードが表示されます。

REC ポートの場合は収録経過時間も表示されます。



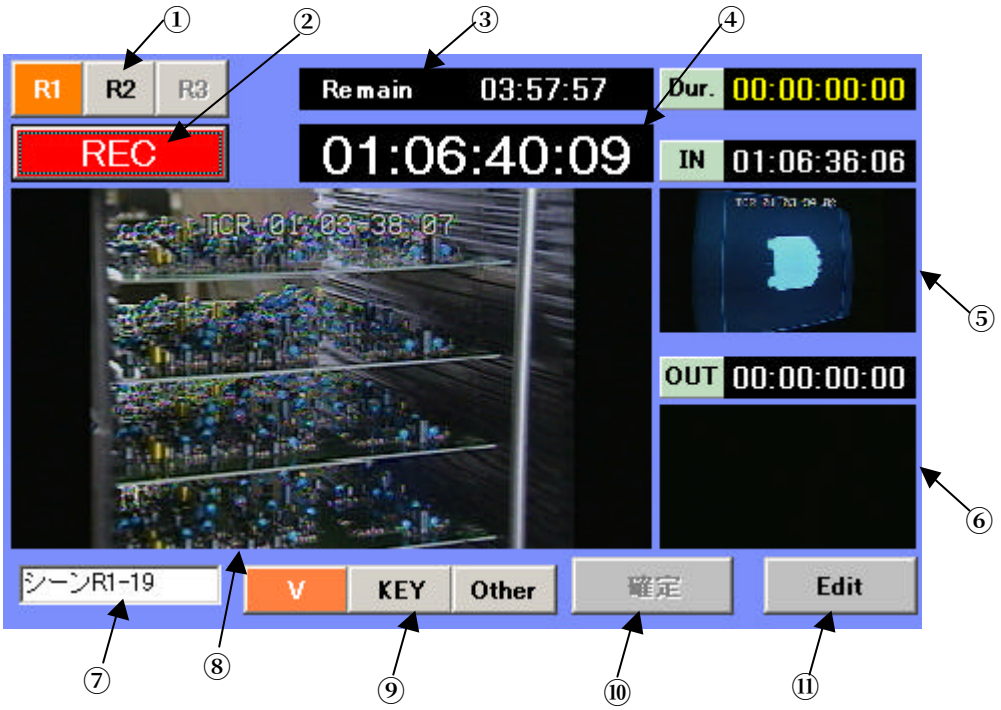
MAV Remain は現在の MAV の DISK 空き領域が表示されます。

これから収録を開始する場合にどれくらい収録できるかが表示されます。

収録中に“ R1 ”,“ R2 ”名称表示部分にマウスを移動すると収録中のファイル名がヒント表示されます。

クリックすると収録中ファイル名を変更することができます。

４－４．ライブエリア



■各部の説明

①Rec ポート選択ボタン

操作またはモニターしたいポートを選択するボタンです。

②Rec ステータス，開始／停止ボタン

Rec 中は赤で表示されます。

クリックすることで選択しているポートの Rec の開始，停止が行なえます。

③Rec 残り時間

収録残時間を表示します。

④Rec タイムコード

Rec タイムコードが表示されます。

⑤IN 点タイムコード，サムネイル

MarkIn したタイムコードとサムネイルが表示されます。

⑥OUT 点タイムコード，サムネイル

MarkOut したタイムコードとサムネイルが表示されます。

⑦クリップタイトル

クリップのタイトルを入力します。

⑧Rec キャプチャー映像

Rec 中のキャプチャー映像が表示されます。

⑨クリップ種類選択ボタン

クリップの種類を V，KEY，Other から選択します。

⑩確定ボタン

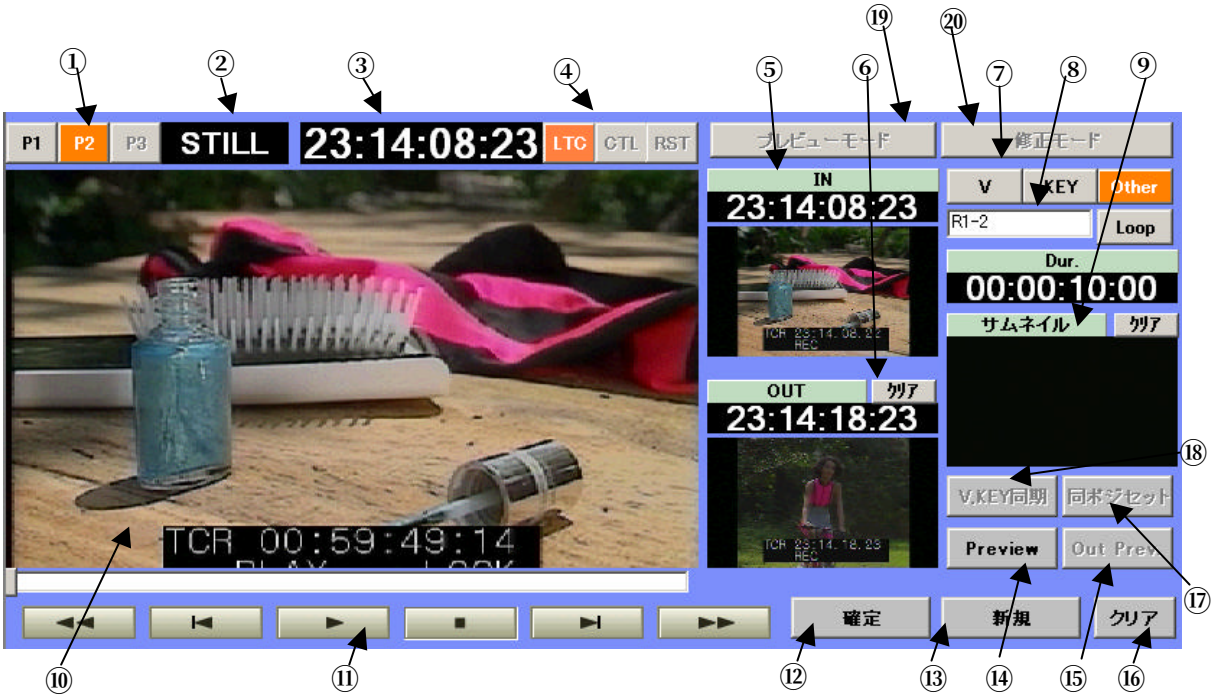
IN，OUT を設定したクリップをカテゴリに登録します。

IN，OUT ともに設定しないと確定ができません。

⑪Edit ボタン

Mark したクリップのトリミングを開始するボタンです。

４－５．プレビューエリア



■各部の説明

①プレビューポート選択ボタン

操作またはモニターするポートを選択するボタンです。

②プレビューポートステータス

プレビューポートのステータスを表示します。

③プレビューポートタイムコード

プレビューポートのタイムコードを表示します。

④LTC，CTL 選択

表示するタイムコードを選択します。CTL の場合は Reset が可能です。

※現バージョンでは LTC のみ選択可能です。

⑤IN 点タイムコード，サムネイル

クリップ IN 点のタイムコードとサムネイルが表示されます。

⑥OUT 点タイムコード，サムネイル，クリア

クリップOUT点のタイムコードとサムネイルが表示されます。クリアするとIN点のみ設定したオープンエンドクリップになります。

⑦クリップ種類選択ボタン，Loop 設定ボタン

クリップの種類を V，KEY，Other から選択します。

Loop 再生する素材は Loop ボタンをクリックします。トグルボタンでアンバー表示で Loop 再生，通常表示でノーマル再生となります。

⑧クリップ名称

クリップ名称を設定します。

⑨サムネイル設定，クリア

素材エリアに表示するサムネイルを設定します。通常は IN 点のサムネイルが素材エリアに表示されますが、黒で始まるクリップの判別ができないため、そのクリップを代表するような映像を頭だししサムネイルエリアをクリックして、このクリップのサムネイルとして登録します。

クリアするとサムネイル設定が解除されます。

⑩プレビュー中映像

プレビューしているポートの映像がキャプチャー表示されます。

⑪操作ボタン

左から REW, GOTO IN, PLAY, STOP, GOTO OUT, F.F ボタンが並びます。

⑫確定ボタン

編集中のクリップを現在のカテゴリに上書き登録します。

⑬新規ボタン

編集のクリップを現在のカテゴリに新規登録します。

⑭Preview（In Prev）ボタン

編集中のクリップの IN～OUT をプレビューします。

P1，P2 ともに編集クリップがある場合は同期再生します。

編集エリアのクリップのプレビュー（EditFile 側を見ている場合）を行なっている場合は“ In Prev ”と表示され、環境設定→編集設定で設定されている秒数で IN 点プレビューを行ないます。

⑮Out Prev ボタン

編集エリアのクリップのプレビュー（EditFile 側を見ている場合）を行なっている場合に有効になります。

環境設定→編集設定で設定されている秒数で、OUT 点プレビューを行ないます。

⑯クリアボタン

編集中のクリップをクリアします。プレビューエリアからクリアされるだけで、カテゴリ内から削除はされません。

⑰同ポジセットボタン

V，KEY を合わせる位置でこのボタンをクリックし、アンバー表示にします。

同ポジをクリアする場合は、もう一度クリックします。

同ポジ設定されている場合は“確定”した時に、V，KEY クリップの IN，OUT 点が自動調整されます。

⑱VKEY 同期ボタン

P1,P2 でロードしている V,KEY 素材を同期再生します。

JOG 操作等でフレーム単位のずれを確認する場合にクリックします。

同期モードを解除する場合は、もう一度クリックします。

※この機能は MDC-100（または同等のファームウェアをセットアップした MCI-50）を使用している場合のみ可能になります。

⑲Edit File ボタン（INI ファイルでボタン名称が変更可能）

編集エリアのクリップをトリミングしている場合に有効になります。

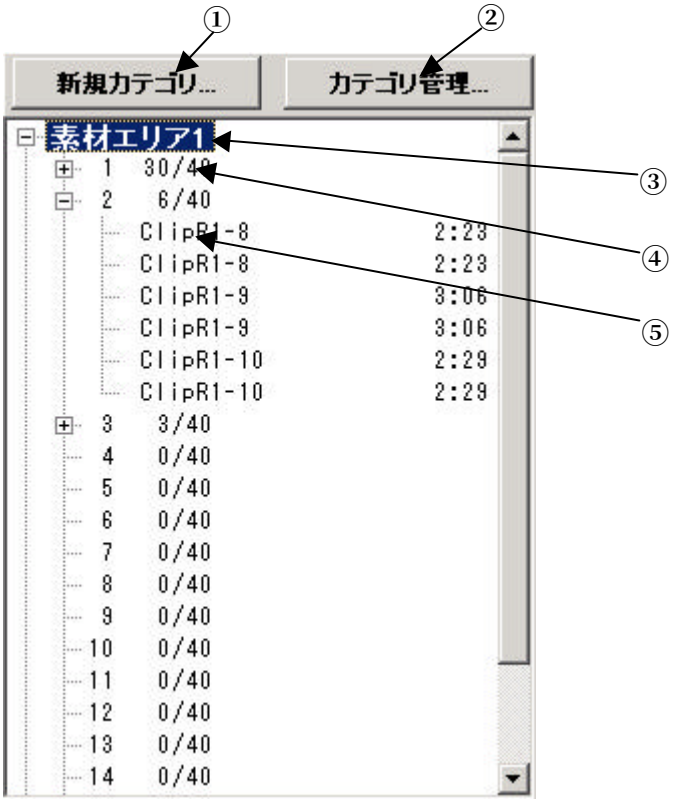
EditFile ボタンをクリックすると、編集エリアに並べたクリップのプレビューモードになり、クリップのつなぎを確認することができます。

⑳Original File ボタン（INI ファイルでボタン名称が変更可能）

編集エリアのクリップをトリミングしている場合に有効になります。

OriginalFile ボタンをクリックすると、現在プレビューしているクリップの修正モードになり、IN/OUT の修正が可能になります。

４－６．カテゴリエリア



■各部の説明

①新規カテゴリボタン

カテゴリを新規に作成するボタンです。

②カテゴリ管理ボタン

カテゴリ内のクリップ削除，カテゴリの削除，カテゴリの順序変更等を行ないます。

③カテゴリ名称

カテゴリ名称が表示されます。

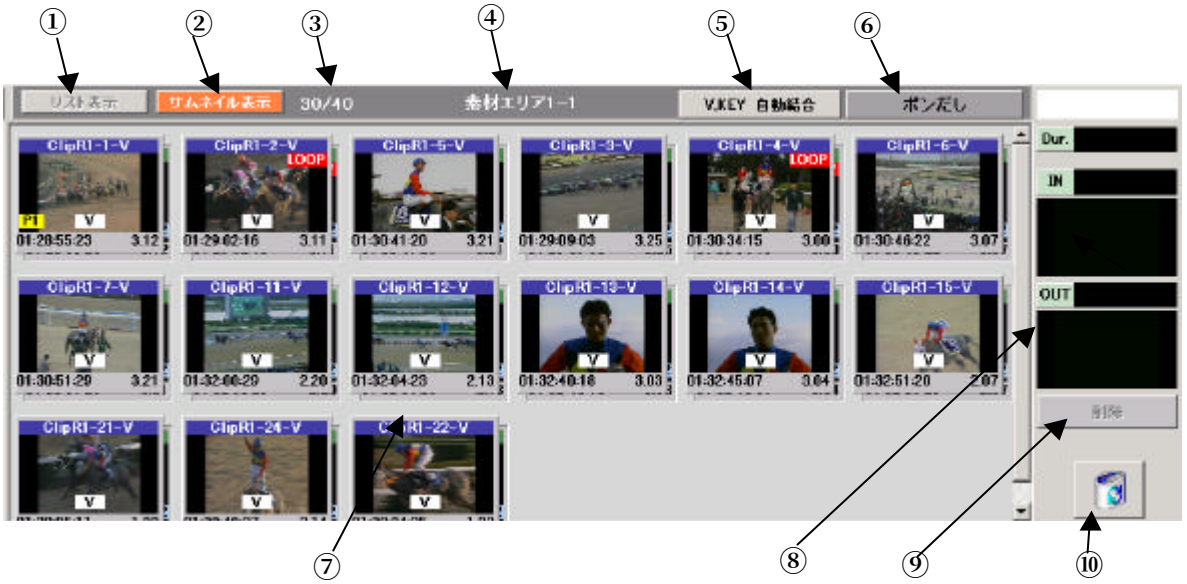
④ページ番号，クリップ数

ページ番号と登録されているクリップ数が表示されます。

⑤クリップ情報

クリップ名称とデュレーションが表示されます。Ｖにリンク設定されているKEY 素材はクリップ名の前に“＊”マークが表示されます。

４－７．素材エリア



■各部の説明

①リスト表示ボタン

素材エリア表示をリスト表示に切り替えます。

※現バージョンでは機能しません。

②サムネイル表示ボタン

素材エリア表示をサムネイル表示に切り替えます。

③クリップ数

ページ内のクリップ数を表示します。

④カテゴリ名称，ページ番号

表示中のカテゴリ名，ページ番号が表示されます。

⑤V,Key 自動結合

クリップ名を元にクリップの V と KEY を一括で結合します。

⑥ポンだしボタン

ポンだし送出モードに移行します。

⑦素材エリア

カテゴリに登録されているクリップ情報を表示します。

⑧参照クリップエリア

素材エリア内で選択しているクリップの IN，OUT **情報を表示します。**

⑨削除ボタン

参照しているクリップを削除します。

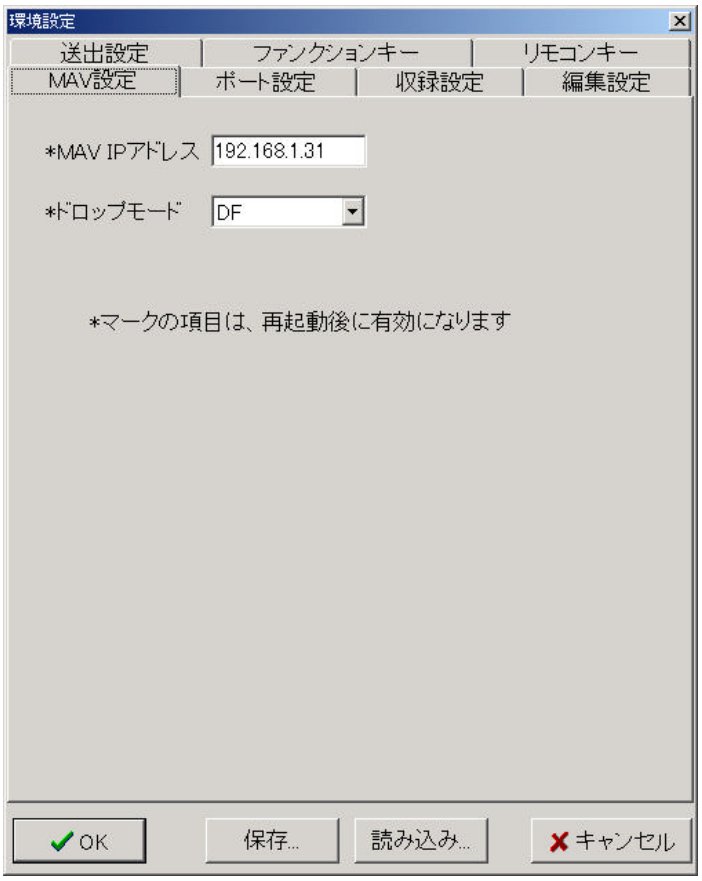
⑩ゴミ箱

クリップのドラッグ＆ドロップまたは削除でクリップがゴミ箱に入ります。

５．環境設定

運用環境を設定します。ファイルメニューから“環境設定”を選択します。

５－１．MAV 設定



・MAV IP アドレス

使用する MAV の IP アドレスを入力します。

使用する PC，MAV ともに接続可能な IP アドレスを設定してください。

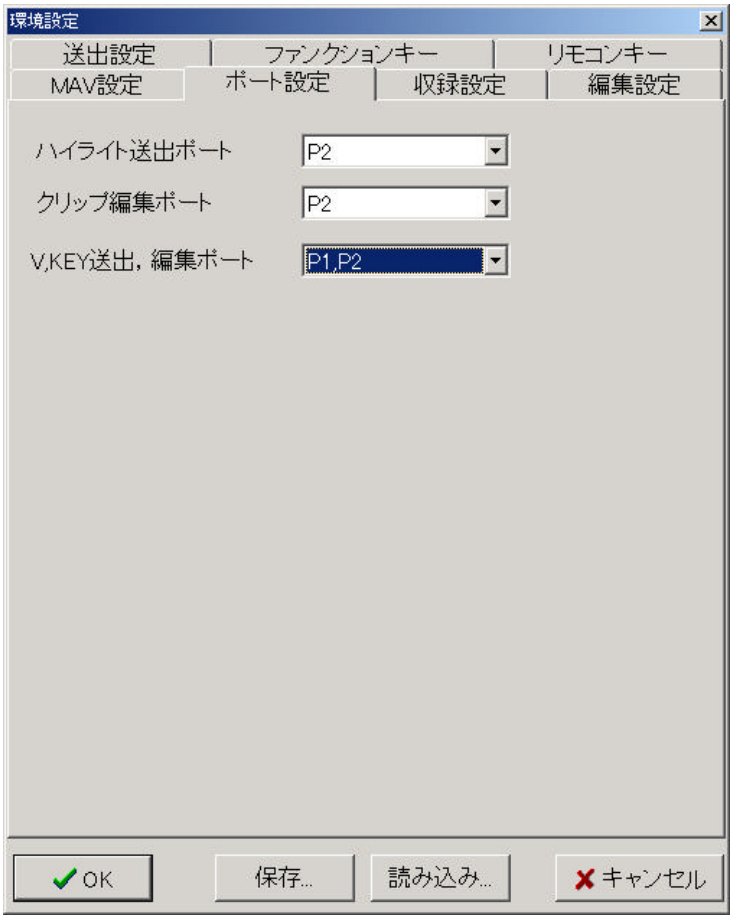
・ドロップモード

MAV のドロップモードを DF または NDF から選択します。

どちらの設定も MAV のメニュー設定を確認し、設定内容に合わせて入力，選択を行なってください。

このページ（MAV 設定ページ）を変更した場合は、一旦アプリケーションを終了し、起動しなおしてください。

５－２．ポート設定



・ハイライト送出ポート

編集エリアで作成したハイライトを送出するポートを選択します。

・クリップ編集ポート

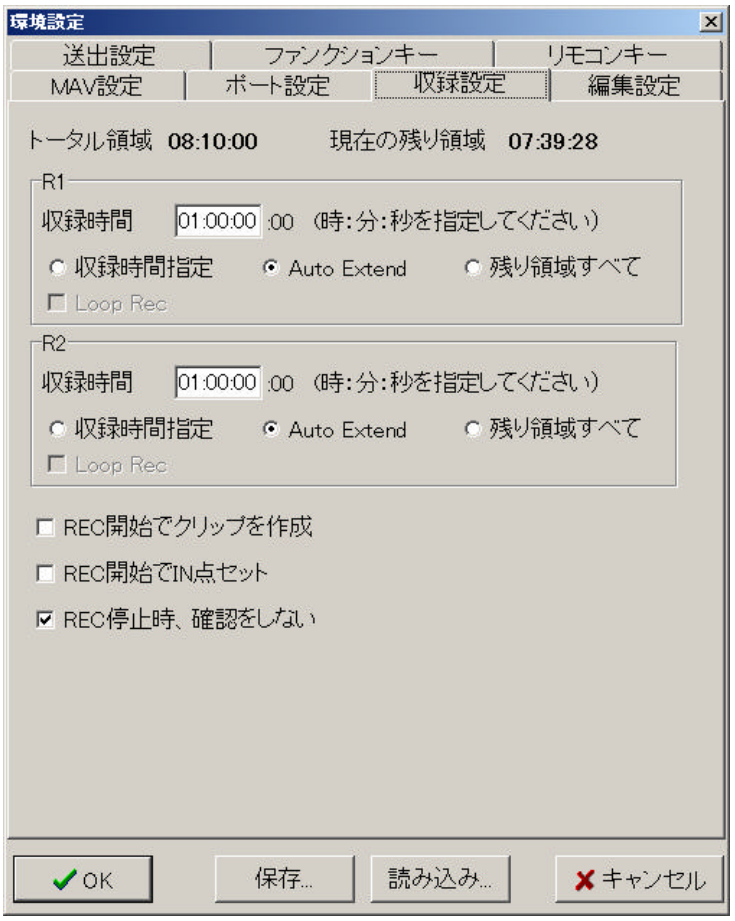
Other クリップを編集するポートを選択します。

・V,KEY 送出，編集ポート

V，KEY クリップの送出，編集ポートを選択します。

※P１，P２ 固定です

５－３．収録設定



・収録時間

収録時間を指定する場合に設定します。

現在の残り領域を超える設定して“ OK ”をクリックすると自動的に現在の残り領域が設定されます。

・収録時間指定

収録時間指定をチェックすると、指定されている“ 収録時間 ”で収録を行ないます。

・AutoExtend

収録時間を決めないで自動的に収録領域を拡張する場合に指定します。

本アプリケーションでは 5 分づつ収録領域を拡張します。

・残り領域すべて

“残り領域すべて”をチェックすると、設定した収録時間に関わらず残り領域全部を収録領域とします。

・REC 開始でクリップを作成

“REC 開始でクリップを作成”をチェックすると、収録開始と同時にオープンエンドクリップが作成されます。

・REC 開始で IN 点セット

“REC 開始で IN 点セット”をチェックすると、収録開始と同時に IN 点がセットされます。

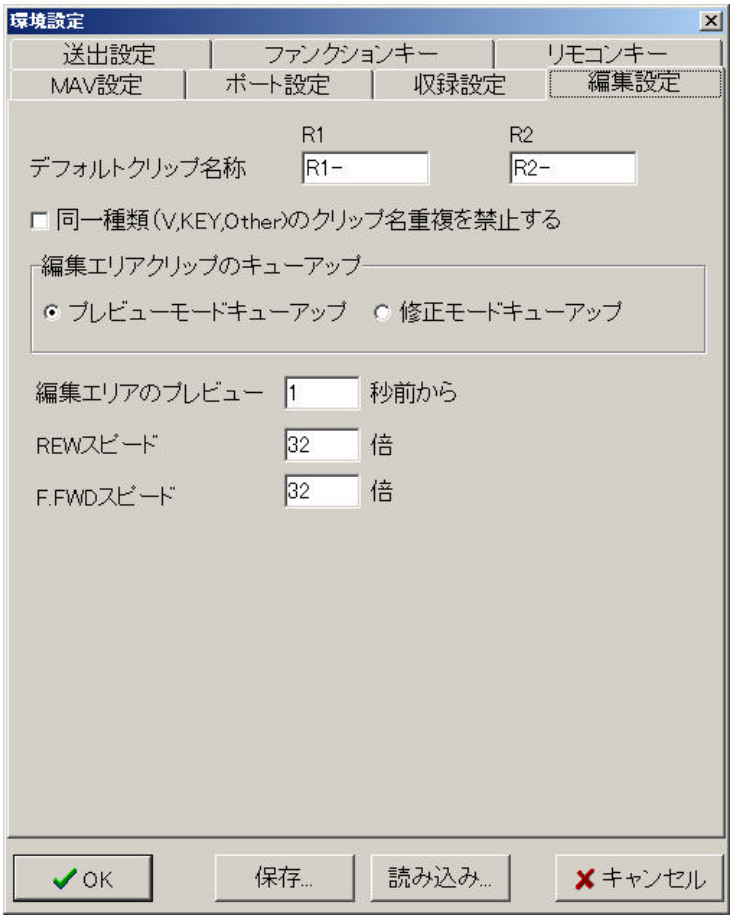
“REC 開始でクリップを作成”と同時に設定はできません。

・REC 停止時、確認をしない

“REC 停止時、確認をしない”をチェックすると、収録停止時（収録中に REC ボタンをクリック）に収録を停止するかの確認メッセージが表示されなくなります。

※1in／3out 構成の場合は R2 設定は表示されません。

５－４．編集設定



・デフォルトクリップ名称
クリップを登録した場合のデフォルトクリップ名称を設定します。

・同一種類（V,KEY,Other）のクリップ名重複を禁止する
同じ種類で同じクリップ名を作成できないようにする場合にチェックします。

・編集エリアクリップのキューアップ
編集エリアのクリップをキューアップした場合の動作を指定します。

“ Edit File をキューアップ ” を指定すると、カットつなぎの VFL がキューアップされます。カットでつながれたファイルのプレビューが行なえます。

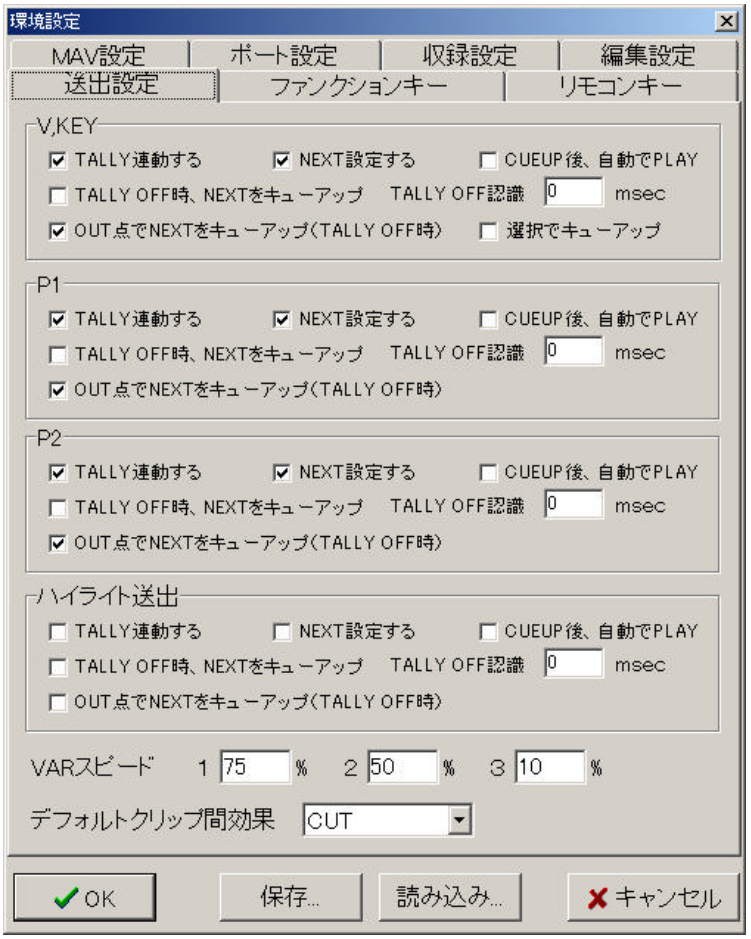
“ Original File をキューアップ ” を指定すると、クリップのトリミングが可能なモードでキューアップされます。

※キューアップした後でも、GUI 上の“ Edit File ”,“ Original File ”ボタンで
キューアップファイルの変更が可能です。

・編集エリアのプレビュー
Edit File モードの場合で“ IN Prev ”,“ Out Prev ”ボタンをクリックしたときに、キューアップしたクリップの IN 点または OUT 点の何秒前から再生するか設定します。

・REW，F.FWD のスピード
REW，F.FWD ボタンまたはキーの再生スピードを設定します。

５－５．送出設定



・V,KEY，P1，P2，ハイライト送出

V,KEY，P1，P2 ではポンだしモードでの送出設定を行ないます。

○TALLY 連動する

TALLY 連動制御を行なうか設定します

○NEXT 設定する

NEXT クリップを指定する場合に設定します

○CUEUP 後，自動で PLAY

CUEUP 後に自動で PLAY する場合に設定します

○TALLY OFF 時、NEXT をキューアップ

TALLY OFF 時に NEXT クリップをキューアップする場合に設定します

○TALLY OFF 認識

TALLY OFF となってから NEXT をキューアップするまでの時間を設定します。

○OUT 点で NEXT をキューアップ（TALLY OFF 時）

TALLY OFF 時に OUT 点まで再生した後に、自動で NEXT クリップをキューアップする場合に設定します

○選択でキューアップ

V,KEY のみの設定でクリップ選択と同時にキューアップ動作を行なうか設定します。

・VAR スピード

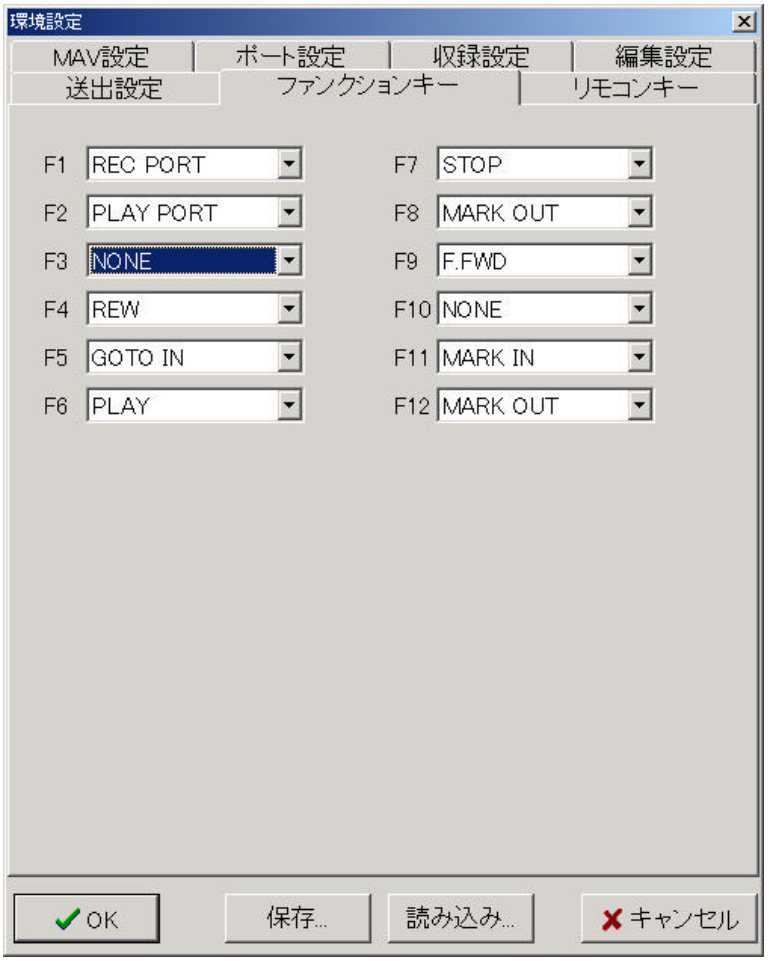
送出モード時に表示する VAR スピードの設定を行います。

・デフォルトクリップ間効果

ハイライト編集時のデフォルトのクリップ間効果を設定します。

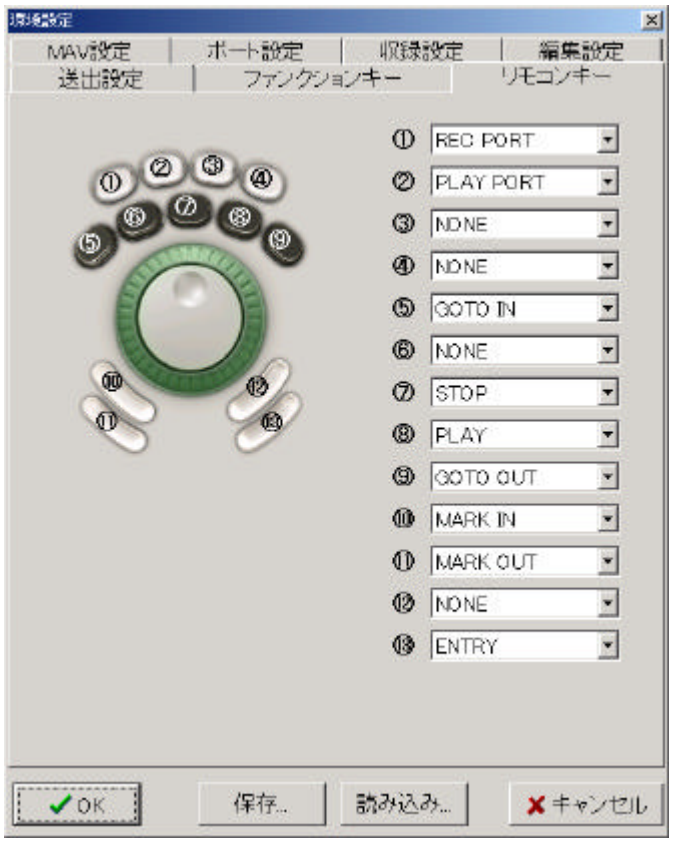
現バージョンでは“ CUT ”,“ STOP ”が設定可能です。

５－６．ファンクションキー設定



キーボードのファンクション F1～F12 までに割り当てる機能を設定します。
設定できる機能については、次ページのリモコンキー設定を参照してください。

５－７．リモコンキー設定



ジョグリモコンの各キーに割り当てる機能を設定します。

■ファンクションキー，ジョグリモコンキーに割り当てられる機能

- PLAY
- STOP
- MARK IN，MARK OUT
- GOTO IN，GOTO OUT
- REW，F.FWD
- REC PORT　　：ライブエリアのポート選択
- PLAY PORT　　：プレビューエリアのポート選択
- THUMBNAIL　　：編集中クリップのサムネイルセット
- 確定　　：編集中クリップの確定

- 新規　　：編集中クリップの新規登録
- LIVE MODE　　：ライブモードへの移行

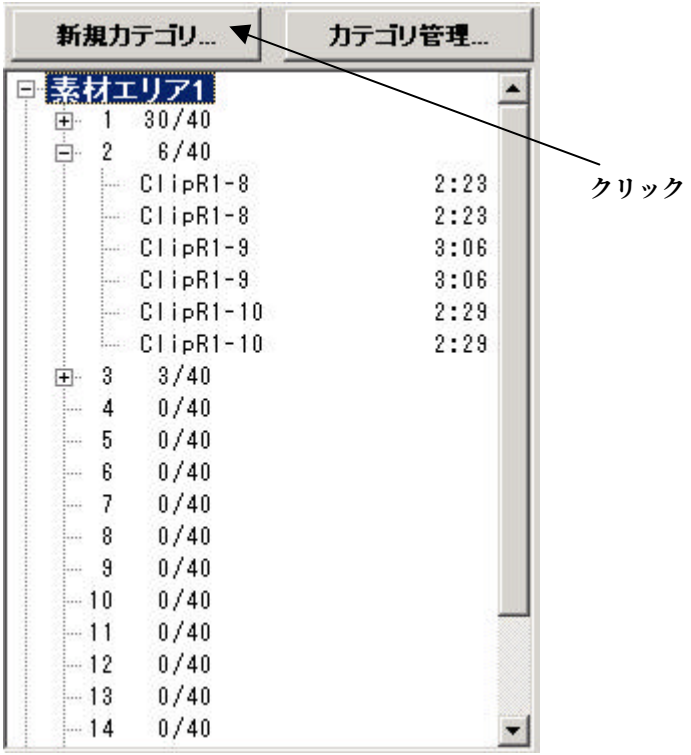
・PREV MODE　　：プレビューモードへの移行

・LIVE MARK IN　　：ライブエリア側の MARK IN
・LIVE MARK OUT　：ライブエリア側の MARK OUT
・LIVE 確定　　：ライブエリア側のクリップ確定
・P1 SET　　：ポンだしモードでの P1 SET
・P2 SET　　：ポンだしモードでの P2 SET
・P1 PANEL　　：P1 送出パネルの表示／非表示
・P2 PANEL　　：P2 送出パネルの表示／非表示
・P1 SELECT　　：ジョグリモコンを P1 操作モードにします
・P2 SELECT　　：ジョグリモコンを P2 操作モードにします
・EDIT　　：ライブモードで指定したクリップの編集を開始します（ライブエリアの Edit ボタンと同じです）
・DIVIDE（分割）　：ハイライト編集エリアのクリップを分割します

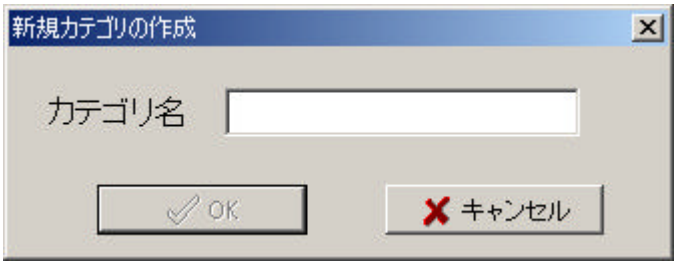
６．カテゴリの新規作成と管理

６－１．カテゴリの新規作成

クリップを作成するにあたりまずクリップを登録するカテゴリを作成する必要があります。カテゴリエリア上部の“新規カテゴリ”をクリックします。



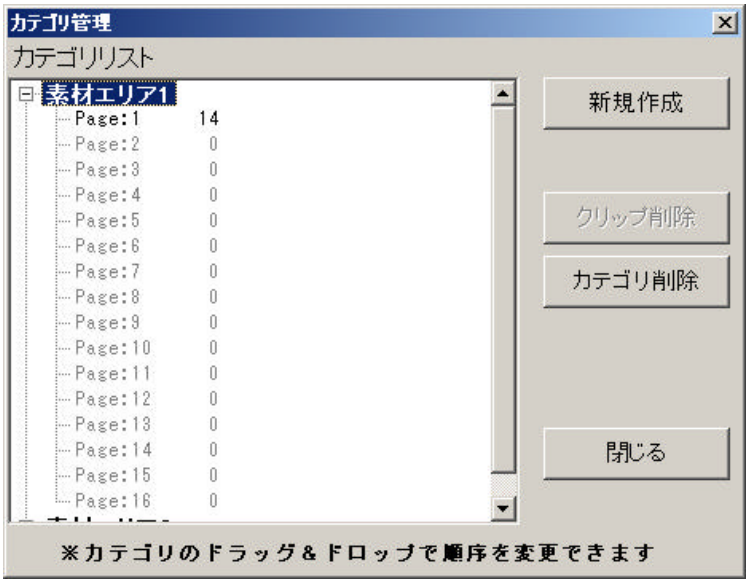
新規カテゴリの作成画面が表示されますので、カテゴリ名を入力して“OK”ボタンをクリックします。



６－２．カテゴリの管理

カテゴリ内のクリップの一括削除，カテゴリの削除，カテゴリの順序変更を行なうには、カテゴリエリア上部の“カテゴリ管理”をクリックします。

カテゴリ管理画面が表示され、カテゴリ名，ページ内のクリップ数が表示されます。



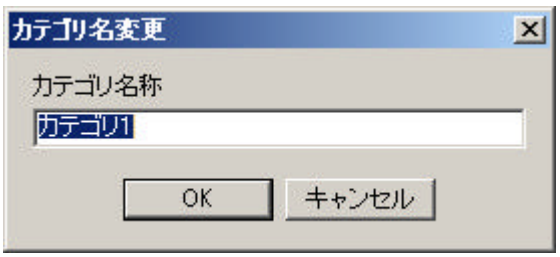
“クリップ削除”ボタンで選択しているページ内のクリップをすべて削除します。
“カテゴリ削除”ボタンで選択しているカテゴリを削除します。
※ **削除操作はすべて確認画面が表示されます。**

また、カテゴリのドラッグ＆ドロップで順序の変更が行なえます。

６－３．カテゴリ名の変更

カテゴリ名を変更するには、カテゴリエリアで変更したいカテゴリ名を選択し、マウスを右クリックしてポップアップメニューから“ カテゴリ名変更 ”を選択します。

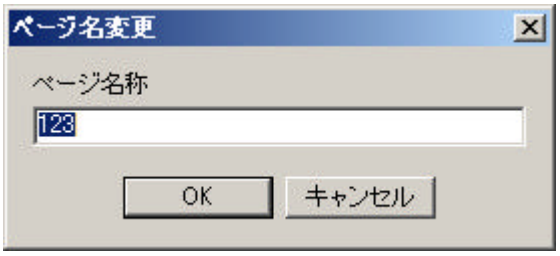
次のカテゴリ名変更ダイアログが表示されますので、新しいカテゴリ名を入力して“ OK ”ボタンをクリックします。



６－４．ページ名の変更

カテゴリ内のページ名を変更するには、カテゴリエリアで変更したいページを選択し、マウスを右クリックしてポップアップメニューから“ ページ名変更 ”を選択します。

次のページ名変更ダイアログが表示されますので、新しいページ名を入力して“ OK ”ボタンをクリックします。

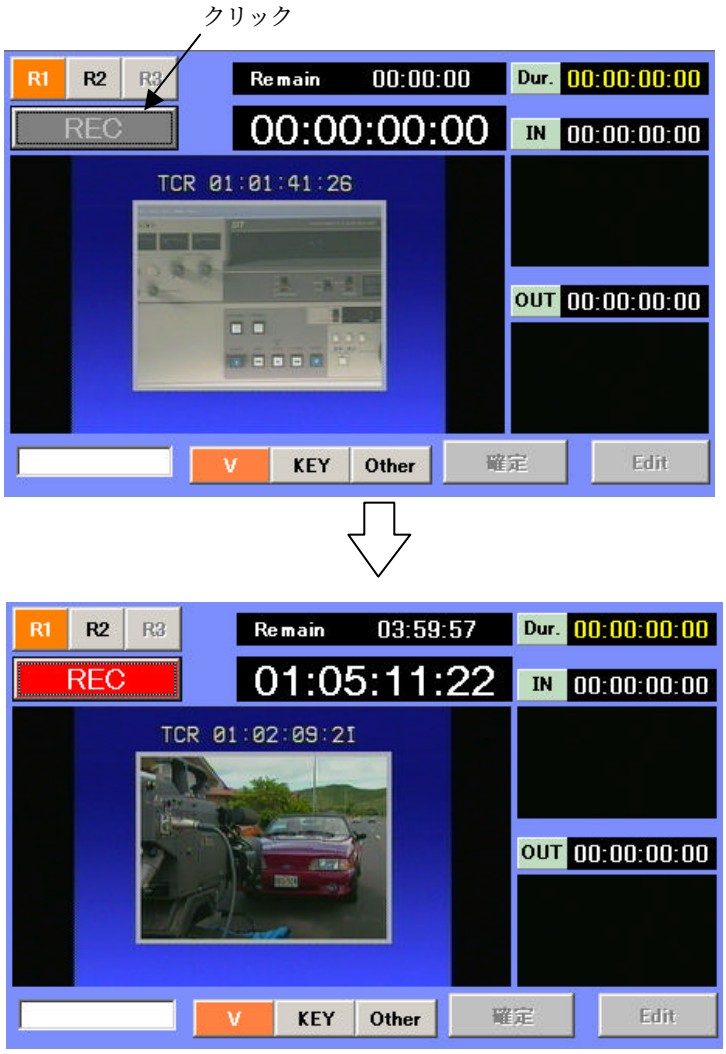


７．手動収録

７－１．収録の開始と停止

■REC の開始

ライブエリアで収録ポートを選択して REC ボタンをクリックします。



REC を開始すると REC ボタンが赤で表示されます。

■REC の停止

REC を停止する場合は、REC ボタンをクリックします。

図のように確認メッセージが表示されますので、“ OK ” ボタンをクリックします。

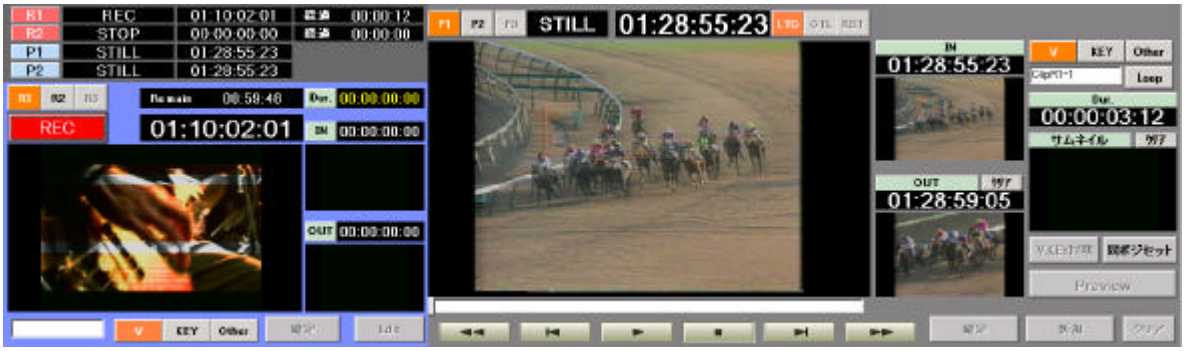
※オープンエンドのクリップがある場合は、REC 終了時に OUT 点が自動的に設定されます。（１～２フレームの誤差が発生する場合があります）

※環境設定→収録設定で “ REC 停止時、確認をしない ” をチェックした場合は上記の確認メッセージは表示されません。

8．ライブ指定モード

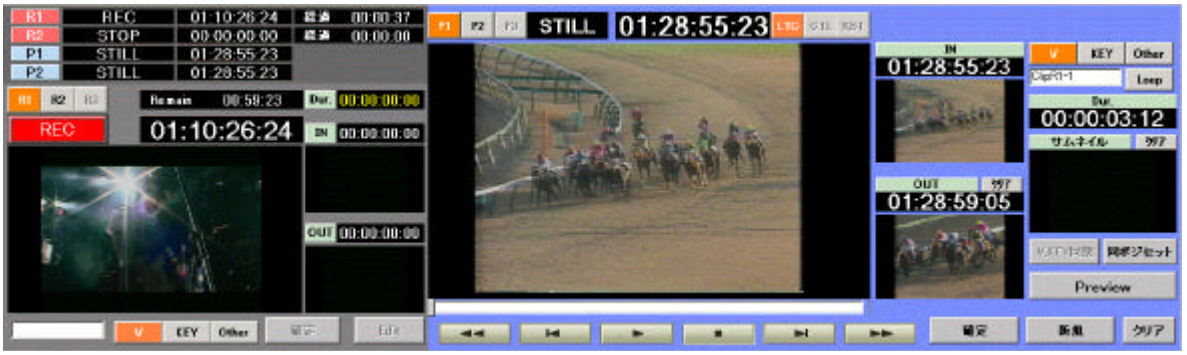
収録映像を見ながら MarkIn，MarkOut してシーンを登録していくモードを
“ ライブ指定モード ”と呼びます。

■ライブ指定モード時の表示



ライブ指定モードの場合、図のように収録映像側が水色の枠で表示されます。

■クリップ修正モード時の表示



クリップ修正モードの場合、図のようにプレビュー映像側が水色の枠で表示されます。

8－1．ライブ指定モードへの移行

クリップ修正モードからライブ指定モードに移行するには、マウスでライブエリアのキャプチャー映像をクリックします。

8－2．ライブ指定モードでのシーン登録

次の手順で収録映像を見ながらシーンを登録します。

（1）IN 点，OUT 点を設定

映像を見ながらジョグリモコンの MarkIn（Out）を押します。
またはサムネイルエリアの IN（OUT）をクリックします。

■IN 点を指定した場合

■IN 点，OUT 点を指定した場合

図のようにそれぞれタイムコードとサムネイルが表示されます。
IN，OUT とも決定している場合は、デュレーションも表示されます。

（2）クリップタイトル

クリップにタイトルをつける場合はクリップ名称を設定します。MarkIn を行なった時点でデフォルト名称が設定されますので、変更する必要があれば設定し直します。（あとで修正することもできます）

（3）クリップ種類

登録するクリップの種類を設定します。

（4）確定

クリップの IN，OUT を設定すると“確定”ボタンが有効になります。
画面上のボタンをクリックするか、ジョグリモコンの確定ボタンを押します。

（5）IN，OUT が逆転している場合または IN，OUT が同じ場合

IN，OUT が逆転している場合は、デュレーションが黄色で表示されます。
この場合はクリップを登録することはできません。

８－３．ライブ指定モードクリップの修正

クリップを登録する前に、トリミングを行ないたい場合は次の手順を行います。

（１）クリップ修正モードへ移行

画面上の EDIT ボタンをクリックします。
クリップ編集モードへ移行し、編集ポートに IN 点がキューアップされます。

収録直後の場所にキューアップする場合は、MAV の性能により IN 点より前にキューアップされる場合があります。
（MAV は収録してから 2 秒経過しないとその場所をキューアップできないためです）

クリップ種類に V を指定した場合は P1 でキューアップされ、Key を指定した場合は P2 でキューアップされます。
Other の場合は環境設定のポート設定でクリップ編集ポートで設定されているポートでキューアップされます。

（２）クリップのトリミング

ジョグリモコンの JOG，SHUTTLE を使用して編集点をサーチし、
MarkIn，MarkOut を行ないクリップを修正します。

クリップ修正モードでは、上図のボタンとジョグリモコンで再生，キューアップ制御が可能です。
左から、

- REW　　：REW します
- GOTO IN　　：クリップの IN 点にキューアップします
- PLAY　　：PLAY します
- STOP　　：STOP します
- GOTO OUT　　：クリップの OUT 点にキューアップします
- F.F　　：F.F します

（3）タイムコードの直接入力

直接タイムコードを入力してキューアップしたい場合は、キャプチャー表示上部のタイムコード表示部分をマウスで左クリックします。

EditBox が現れタイムコードの入力が可能になります。
Enter キーを押して確定します。確定すると入力されたタイムコードにキューアップします。

修正をキャンセルする場合は ESC キーを押します。

IN 点，OUT 点，デュレーションもクリックすることで直接入力が可能になります。

※IN，OUT，Dur の場合は入力されたタイムコードへのキューアップに失敗した場合は元のタイムコードに戻ります。

（4）確定

ライブ指定モードと同様に“ 確定 ”ボタンででクリップをカテゴリに登録します。

８－４．登録されたクリップの表示

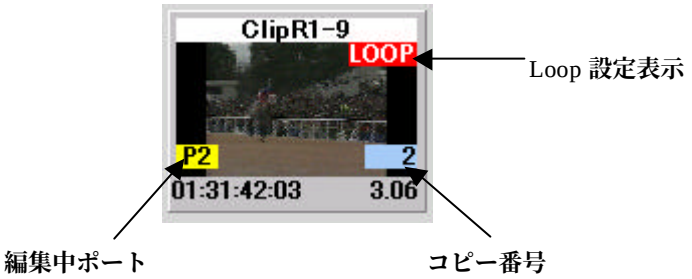
カテゴリに登録されたクリップは図のように表示されます。

■V クリップ

■Key クリップ

■その他のクリップ

IN 点（または登録した）サムネイルと IN 点タイムコード，デュレーションが表示されます。



また上図のように編集中のクリップには編集中のポート名称が表示されます。
あるクリップを編集して“新規”ボタンで登録すると、コピーが作成され図のようにコピー番号が表示されます。

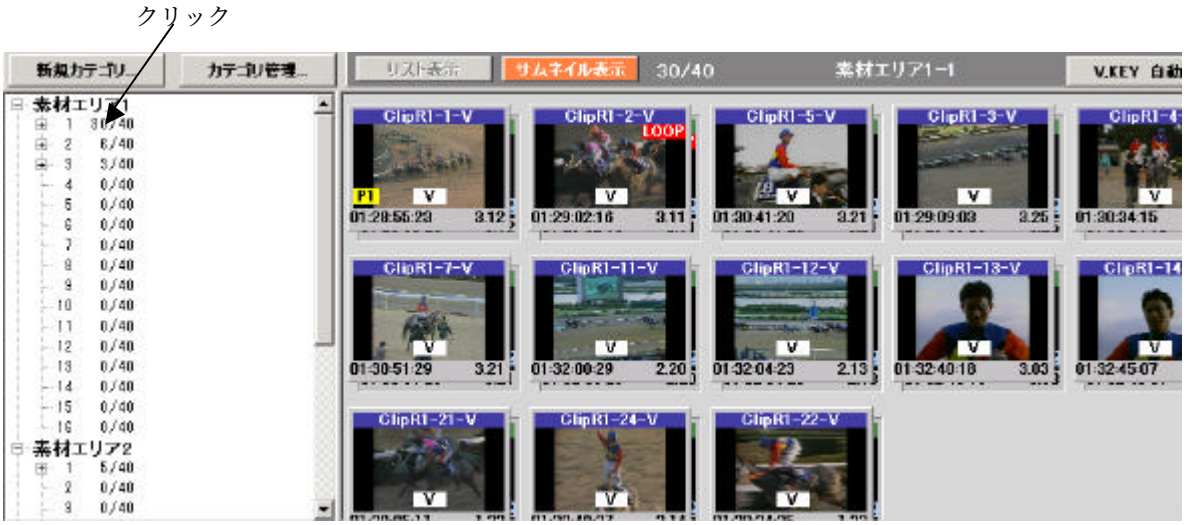
LOOP 設定されているクリップは上図のように“LOOP”と赤で表示されます。

９．カテゴリエリア，素材エリア

９－１．カテゴリの切り替え

各カテゴリには登録されたクリップが表示されます。

素材エリア表示を切り替えるには、図のようにカテゴリ内のページをクリックします。



９－２．クリップの修正

素材エリアのシーンを修正するには、修正したいクリップをダブルクリックするかプレビューエリアにドラッグ＆ドロップ，または右クリックで表示されるポップアップメニューから“編集”を選択します。

編集ポートにキューアップされサムネイルが表示されます。また、図のようにクリップ全体が緑、編集ポートが黄色で表示され、編集中であることを表します。

クリップのトリミングはライブ指定モード時のクリップの修正方法と同様です。

■キューアップされるポート

各クリップは種類によりキューアップされるポートが異なります。

・V，Other クリップ　　：P1 ポートでキューアップ
・Key クリップ　　：P2 ポートでキューアップ
・Other クリップ　　：環境設定、ポート設定でクリップ編集ポートの設定によります

■編集ポートの選択

P1，P2 でそれぞれ異なるクリップを修正することができます。

P1 でキューアップされているクリップを修正するには“ P1 ”を、P2 でキューアップされているクリップを修正するには“ P2 ”ボタンをそれぞれクリックします。

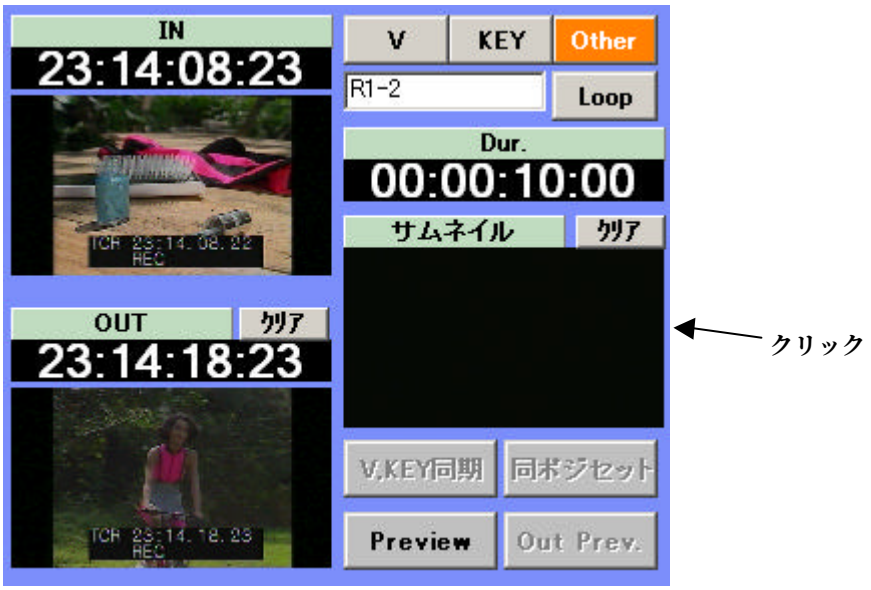
■クリップサムネイルの登録

素材エリアに表示されるクリップは、特に指定しない限り IN 点のサムネイルが表示されます。

クリップによっては黒で始まったり判別しづらい IN 点の場合もあります。

このような場合はサムネイル登録を行ないます。

サムネイルとして登録したい位置をサーチして、“ サムネイル ”エリアをクリックします。



■修正クリップの上書きと新規作成

クリップを修正して上書きする場合は、“ 確定 ”ボタンをクリックします。

元のクリップを残して新規に作成する場合は、“ 新規”ボタンをクリックします。

■修正クリップのプレビュー

“ Preview ”（IN Prev）ボタンをクリックすることで IN～OUT までをプレビューすることができます。

P1，P2 ともに修正中であれば P1，P2 で同期再生します。

■修正クリップのクリア

修正を中止する場合は中止したい編集ポートを選択して、“ クリア ” ボタンをクリックします。

プレビューエリアでの IN，OUT 情報はクリアされますが、素材エリアにはクリップとして残ります。

■V，KEY クリップの同ポジセット

V，KEY クリップを修正中の場合は、V と KEY が一致する位置で “ 同ポジセット ” ボタンをクリックすることで同ポジセットができます。

同ポジセットを行なうとこのボタンがアンバー表示となり、同ポジセットされていることを表します。

同ポジ設定されている場合、V クリップ側で IN，OUT を設定し “ 確定 ” を行なうと KEY クリップの IN，OUT が自動的に調整されます。

同ポジセットボタンはトグルボタンとなっており、もう一度クリックすると同ポジモードが解除されます。

■V，KEY 同期

P1 で V クリップ，P2 で KEY クリップを修正している場合、“ 同ポジセット ” を行なった後で、“ V,KEY 同期 ” ボタンをクリックしてアンバー表示をしておくと、ジョグリモコンで JOG 操作した場合も P1，P2 が同期制御されます。

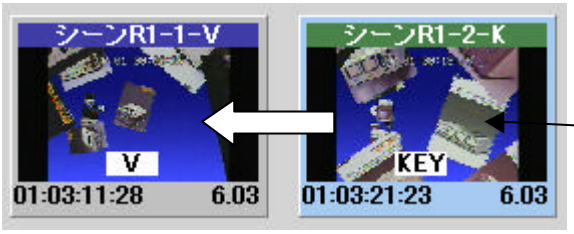
V，KEY 間でのずれ具合を見る場合に使用します。

※SHUTTLE 操作の場合は P1，P2 で同期がとれなくなります。

９－３．V，KEY 結合処理

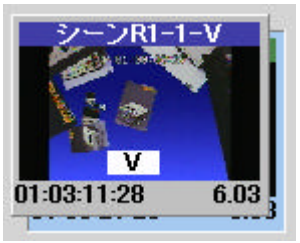
登録されているクリップの V，KEY を結合して、送出時に同期再生するように設定します。

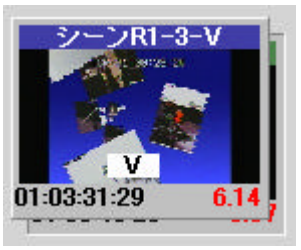
■ドラッグ＆ドロップで設定



図のように**KEY クリップ**を結合したい V クリップに**SHIFT キーを押しながら**ドラッグ＆ドロップします。
または**KEY クリップ**を**右クリック**でドラッグ＆ドロップします。

V，KEY が結合されると下の図のように表示されます。





右の図は V と KEY でデュレーションが異なるため Dur 表示が赤となります。

■自動結合

V クリップと KEY クリップが同じクリップ名称の場合で、それぞれクリップ種類が V，KEY に設定されている場合は一括で結合処理が行なえます。
“ V，KEY 自動結合 ” ボタンをクリックすると、確認画面が表示され “ OK ” を選択すると自動的に結合されます。

※同じクリップ名の V，KEY クリップでデュレーションが異なる場合は、デュレーションが異なるクリップも結合するかどうかの確認画面が表示されます。

■V，KEY 表示切替

V, KEY の結合処理が行なわれると、KEY クリップは V クリップの後ろに隠れます。

KEY クリップを前面に表示したい場合は、クリップを右クリックしてポップアップメニューから“ V，KEY 表示切替 ”を選択します。
再び V クリップを前面に表示する場合は、もう一度同じ操作を行ないます。

■V，KEY 結合解除
一旦結合した V，KEY のセットを解除するには、結合されているクリップを選択し、マウスの右クリックでポップアップメニューから“ 結合解除 ”を選択します。

■クリップ種類設定
素材エリアでクリップの種類を変更したい場合は、マウスの右クリックでポップアップメニューを表示し、“ V クリップにする ”, “ KEY クリップにする ”, “ その他のクリップにする “ から選択します。

■クリップ名変更
素材エリアでクリップ名の変更をしたい場合は、マウスの右クリックでポップアップメニューを表示し、“ クリップ名変更 ”を選択します。
クリップ名の入力モードになりますので新しいクリップ名を入力して Enter キーを押します。

■サブタイトルセット
ID インサーターが接続されている場合に表示するサブタイトルをセットします。
マウスの右クリックで表示されるポップアップメニューから“ サブタイトルセット ”を選択します。

※ID インサーターが無い場合も、クリップ上にマウスを移動すると設定されているサブタイトルがヒント表示されます。

９－４．クリップの削除

■ドラッグ＆ドロップで削除

クリップを削除する場合は、削除したいクリップを選択してゴミ箱にドラッグ＆ドロップします。

■ポップアップメニューから削除

クリップを選択してマウスの右クリックでポップアップメニューを表示し、“削除”を選択します。

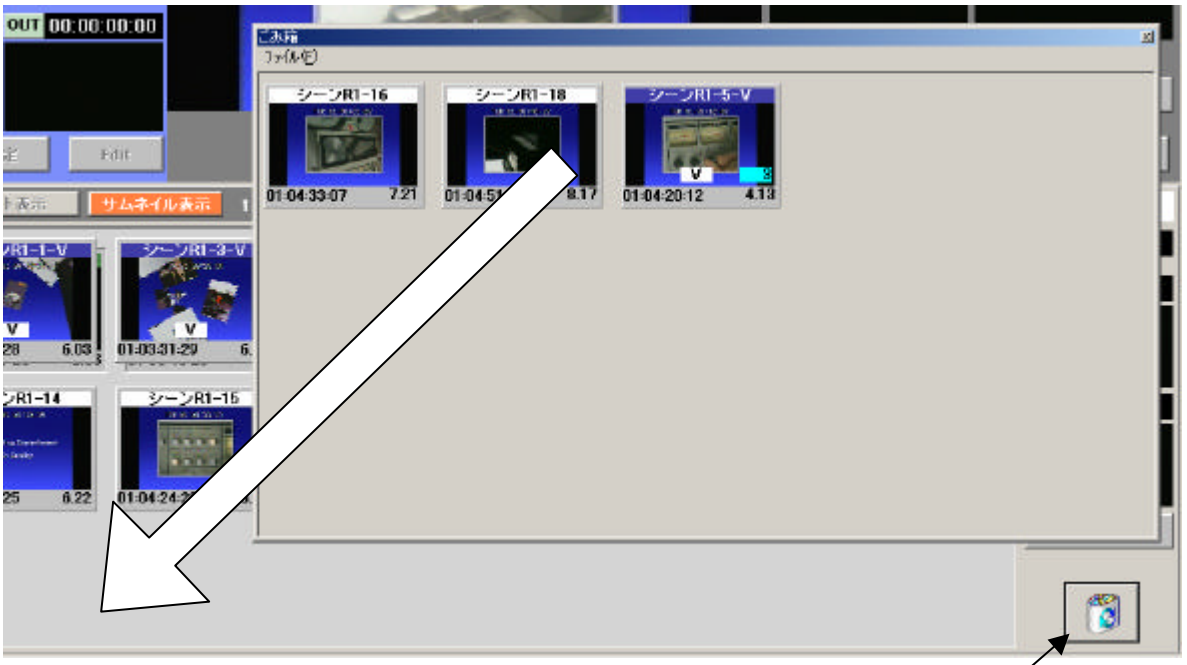
■参照エリアから削除

クリップクリックすると選択表示（水色）になり、参照エリアに IN，OUT 情報が表示されます。参照エリアの“削除”ボタンが有効になりますので、“削除”ボタンをクリックします。

■削除したシーンの復帰

削除したシーンは再び素材エリアに戻すことができます。

ゴミ箱をクリックするとゴミ箱ウインドウが開きます。



図のように復帰したいクリップを素材エリアにドラッグ＆ドロップします。

■ゴミ箱を空にする

ゴミ箱ウインドウのファイルメニューから“ゴミ箱を空にする”を選択するか、ゴミ箱をマウスで右クリックしてポップアップメニューを選択すると“ゴミ箱を空にします。よろしいですか？”と確認メッセージが表示されます。

“はい”を選択するとゴミ箱が空になります。

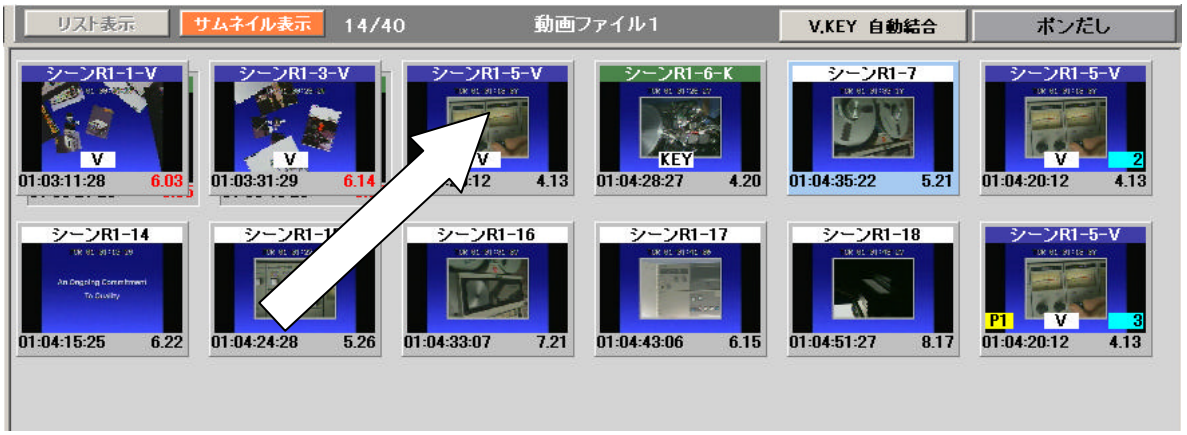
９－５．クリップの移動

■カテゴリ間の移動

あるカテゴリに登録されているクリップを別のカテゴリに移動します。

移動したいシーンを選択して、別のカテゴリ名にドラッグ＆ドロップします。
逆にカテゴリエリアからクリップを選択して素材エリアに移動することも可能です。

■カテゴリ内の移動



カテゴリ内で移動するには、図のように移動したいクリップをドラッグ＆ドロップします。

９－６．時刻指定クリップ

単独クリップまたは編集済みクリップをポンだし（カルタとり）モードまたは P1/P2 送出パネルでの送出の際に、MAV のシステム時計と同期して再生することができます。

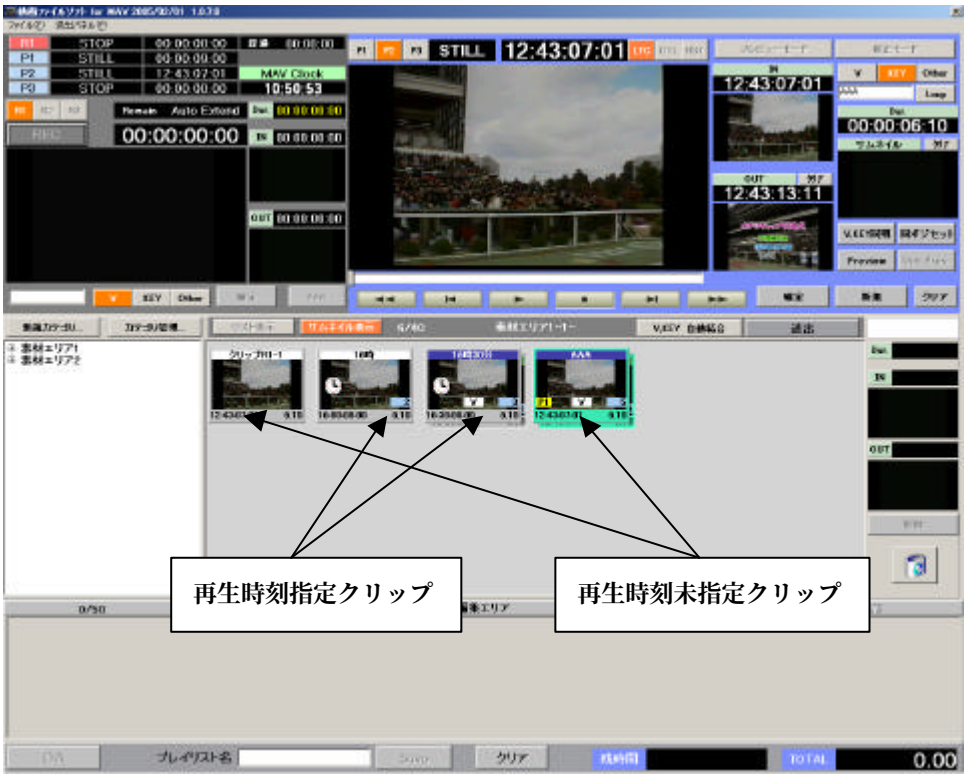
■動作条件

・MAV の SYSTEM TC にリアルタイムクロックが入力されていること

・MAV の時計がリアルタイムクロックと同期していること

SYSTEM TC への TC 入力を変更した場合に、MAV の時計が現在時刻と一致しない場合があります。SYSTEM TC への接続を変更した場合は、MAV の時計が現在時刻と一致しているか確認してください。

■画面イメージ

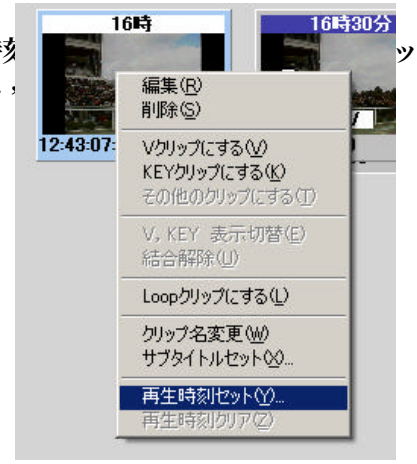


再生時刻指定されたクリップは上図のようにクリップサムネイルに時計マークが表示されます。

■再生時刻の指定方法

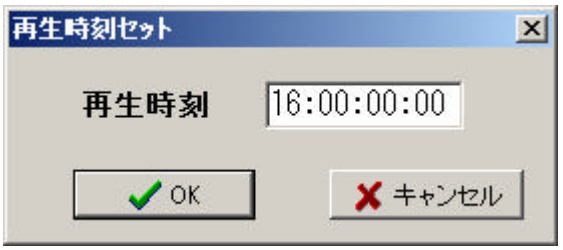
メイン画面の素材エリアで、再生時刻を指定するクリップを右クリックしポップアップメニューを表示し“再生時刻セット”を選択して再生時刻をセットします。

※ 再生時刻

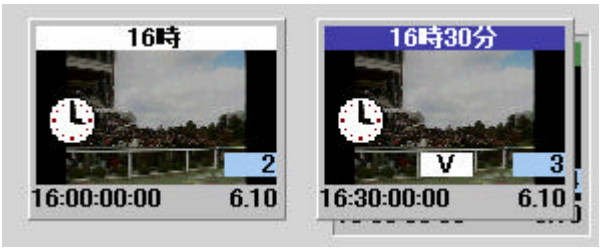


ップアップメニューから“再生時刻クリア”

再生時刻セットを選択



再生時刻を入力



時計マークと再生時刻表示

■ポンだし（カルタとり／送出）モードでの送出方法

上図は再生時刻設定された V,KEY クリップを選択して P1(P2) Set した例です。
図のように送出パネルのサムネイルに時計マークが表示されます。

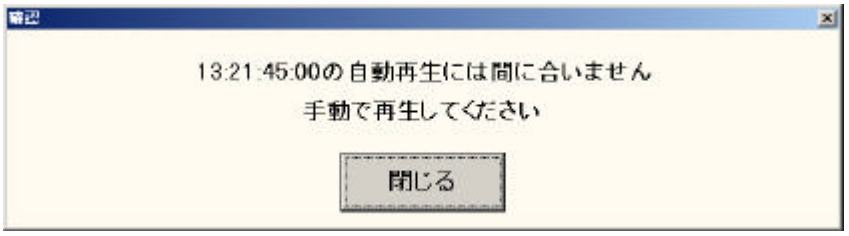
■P1，P2 送出パネルでの送出方法

再生時刻指定されたクリップはポンだしモードと同様に“ P1 送出パネル ”,
“ P2 送出パネル ”でも指定時刻通りの再生が可能です。

■再生時刻が迫っている場合のキューアップ

指定時刻通りに再生する場合は、再生時刻の約 10 秒前にはキューアップされている必要があります。

このため、再生時刻が迫っている場合にキューアップ（P1 Set，P2 Set）操作を行なった場合は次のようなメッセージが表示されます。



上記メッセージが表示されている状態で、送出パネルの PLAY ボタンをクリックすると再生が始まりメッセージウインドウが消去されます。

上記メッセージを表示する“ 10 秒前 ”という設定は INI ファイルで設定します。

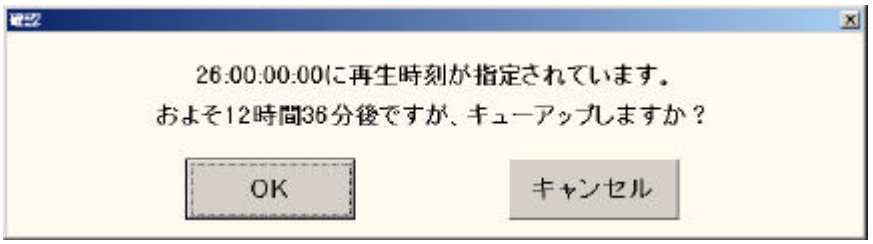
INI ファイル：MavSyncPlay.ini

[PlayTimeSet]

PlayTimeLimit=00:00:10:00

■再生時刻が現在時刻より大幅に後の場合

指定時刻が現在時刻よりかなり後の場合には次のような確認メッセージが表示されます。



上記メッセージを表示する大幅に後という設定は INI ファイルで設定します。

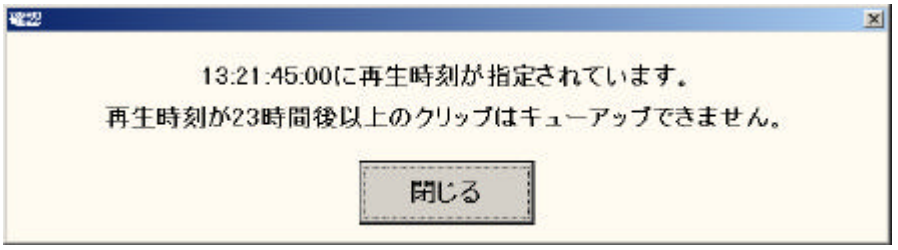
INI ファイル：MavSyncPlay.ini

[PlayTimeSet]

PlayTimeWarning=12:00:00:00　←12 時間以上後の場合にメッセージ表示

■再生時刻が現在時刻より前の場合

指定時刻が現在時刻より前の場合、次のようなメッセージが表示されます。



再生時刻を過ぎているか？指定時刻が 23 時間以上後か？という判断ができないため、INI ファイルで再生不可能な時間を設定します。

INI ファイル：MavSyncPlay.ini

[PlayTimeSet]

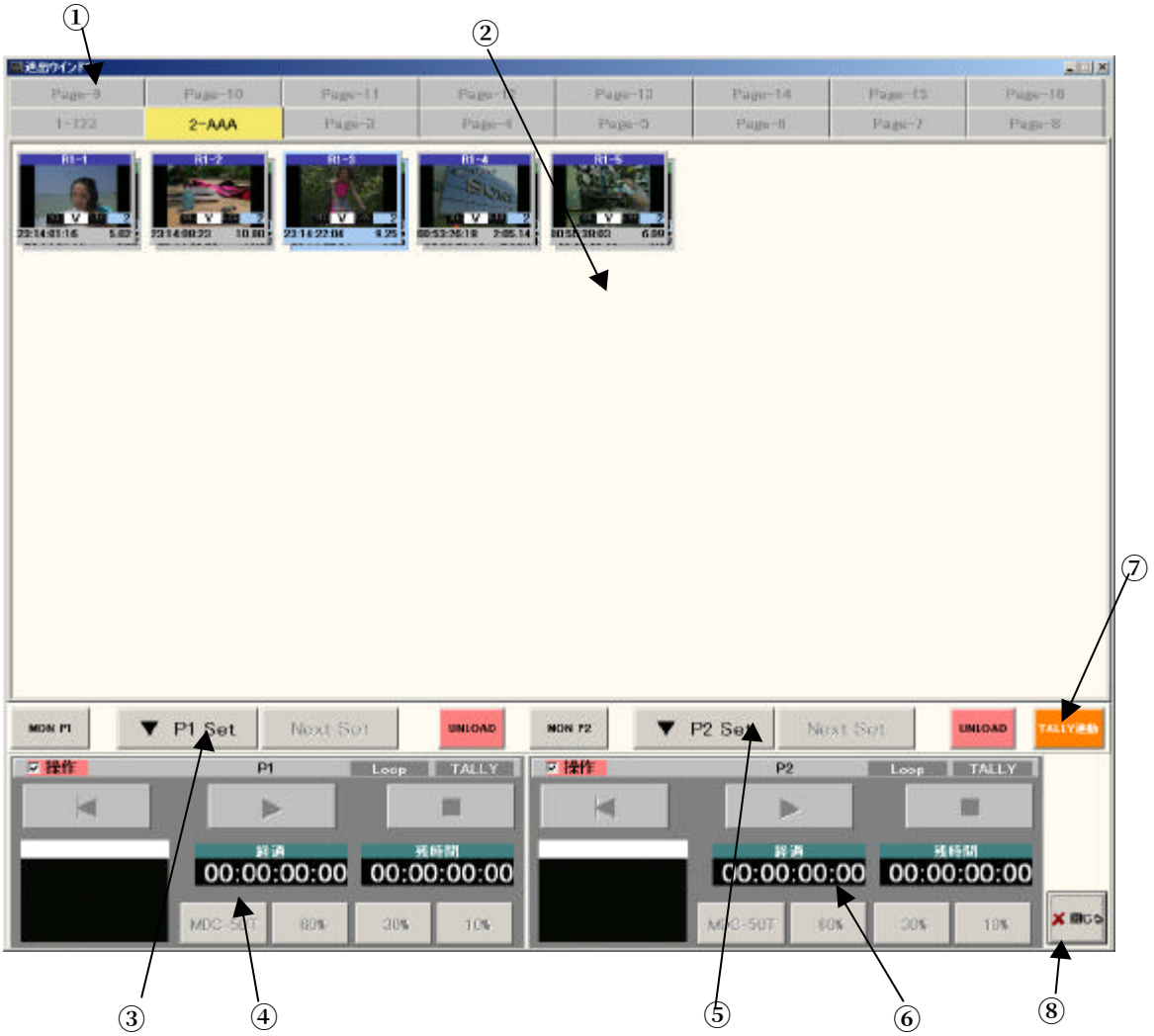
UnablePlayTime=23:00:00:00　←23 時間以上後の場合にメッセージ表示

１０．ポンだしモード

１０－１．ポンだしモードへの移行

ポンだしモードへ移行するには、素材エリア上部の“ポンだし”ボタンをクリックします。

次ページようなポンだしウインドウが表示されます。
ウインドウはマウスでサイズ変更が可能です。



■各部の説明

①ページタブ

１～１６ページのタブが表示されます。ページ名称が設定されている場合はページ名称が表示され、現在選択中のページが黄色で表示されます。

②素材エリア

選択中のページに登録されているクリップが表示されます。

③P1 設定

・MON P1　　：モニターポートを P1 にします
・P1 Set　　：選択しているクリップを P1 でキューアップします
・Next Set　　：選択しているクリップを P1 の NEXT クリップにします
・UNLOAD　　：P1 を強制的に UNLOAD（または BLACK）します

④P1 コントロールパネル

P1 に設定されているクリップ名,サムネイルと送出用の CUEUP, PLAY, STOP, スロー再生ボタン，クリップの再生経過時間，残時間が表示されます。

“操作”チェックボックスのチェックを外すと PC からは P1 の操作が禁止されます。

“MDC-50T”ボタンをクリックすると送出用に MDC-50T から P1 ポートの制御が可能になります。

⑤P2 設定

・MON P2　　：モニターポートを P2 にします
・P2 Set　　：選択しているクリップを P2 でキューアップします
・Next Set　　：選択しているクリップを P2 の NEXT クリップにします
・UNLOAD　　：P2 を強制的に UNLOAD（または BLACK）します

⑥P2 コントロールパネル

P2 に設定されているクリップ名,サムネイルと送出用の CUEUP, PLAY, STOP, スロー再生ボタン，クリップの再生経過時間，残時間が表示されます。

“操作”チェックボックスのチェックを外すと PC からは P2 の操作が禁止されます。

“MDC-50T”ボタンをクリックすると送出用に MDC-50T から P2 ポートの制御が可能になります。

⑦TALLY 連動ボタン

TALLY 連動の ON/OFF を切り替えます。
ON でアンバー表示，OFF でグレイ表示になります。

⑧閉じるボタン

ポンだしモードを終了するボタンです。

１０－２．V，KEY クリップの同期再生

V，KEY クリップのキューアップ，再生方法について説明します。

（1）V，KEY 結合クリップの選択とキューアップ

V，KEY 結合されたクリップを選択すると、“ P1 Set ”, “ P2 Set ” ボタンが有効になります。環境設定の送出設定で、“ ポンだしモード時　V，KEY は選択でキューアップ “ がチェックされていると、選択した時点でキューアップされます。

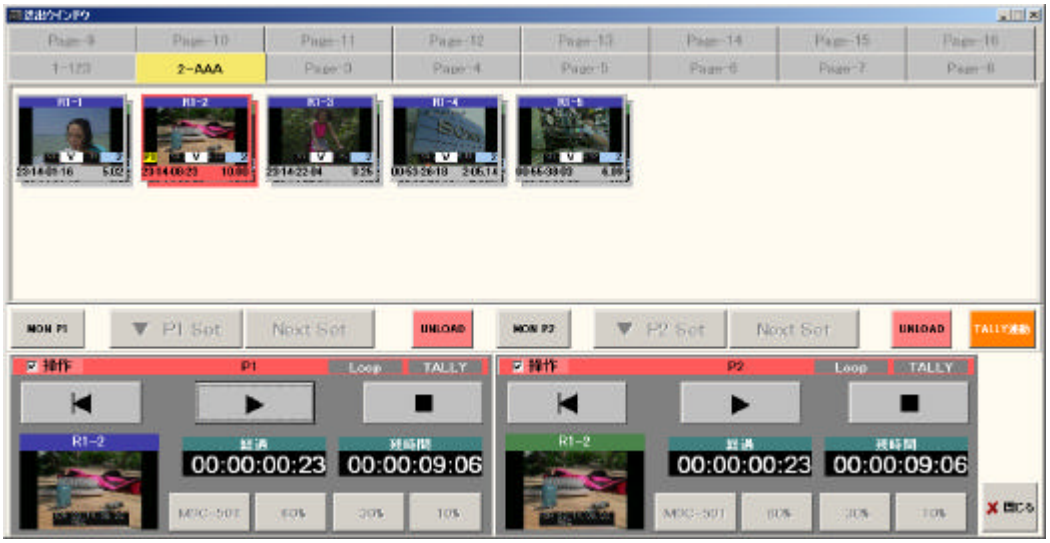
（2）V，KEY キューアップ完了

キューアップ完了表示

図のようにキューアップが完了すると、P1，P2 名が緑で表示されます。
同時にそれぞれのポートでキューアップしているクリップ名，サムネイルが表示され、CUEUP，PLAY，STOP の各ボタンが有効になります。

（3）V，KEY 再生

外部からのスタートタリーまたは PLAY ボタンをクリックすると再生が開始されます。PLAY ボタンは P1，P2 どちらのボタンをクリックしても同期再生します。



再生中は上記のように P1，P2 名が赤で表示されます。

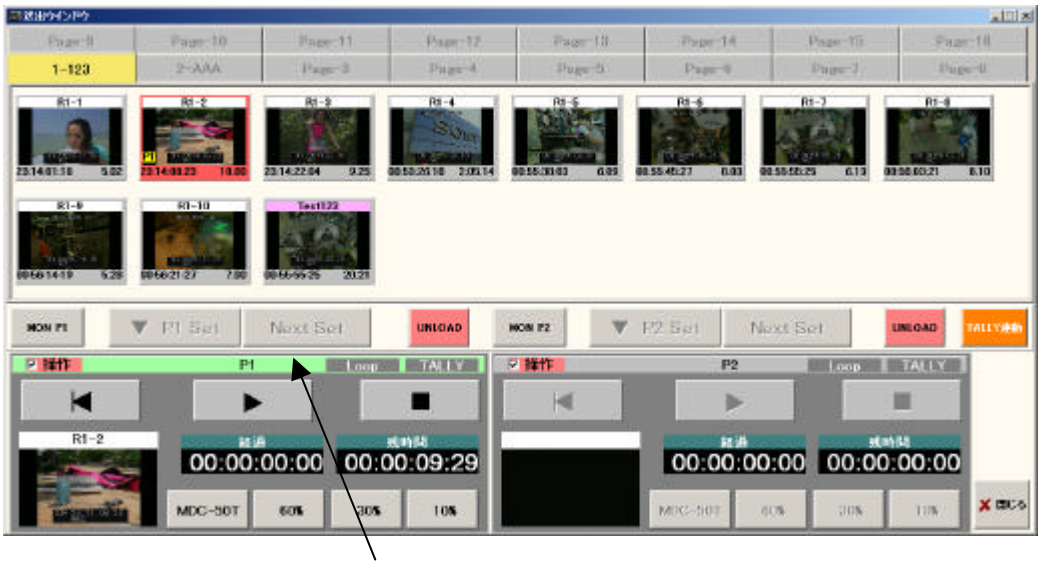
１０－３．クリップの単独再生

クリップのキューアップ，単独再生方法について説明します。

（１） 単独クリップの選択

上図のように再生したいクリップを選択して、再生したいポートのセットボタンをクリックします。

（2）単独キューアップ完了

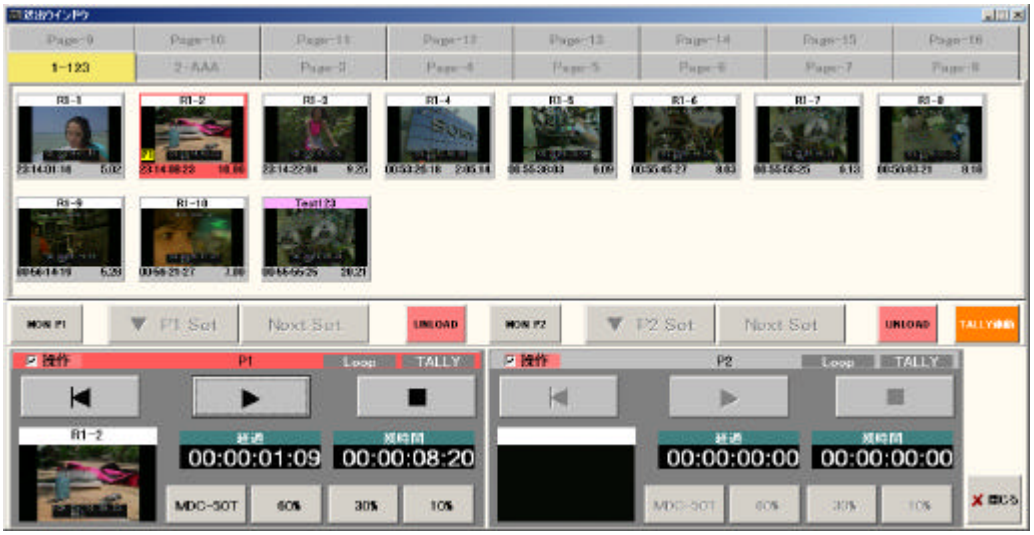


キューアップ完了表示

図のようにキューアップが完了すると、ポート名称が緑で表示されます。
同時にキューアップしているクリップ名, サムネイルが表示され、CUEUP, PLAY, STOP の各ボタンが有効になります。

（3）単独再生

外部からのスタートタリーまたは PLAY ボタンをクリックすると再生が開始されます。



再生中は上記のようにポート名が赤で表示されます。

１０－４．コントロールパネル

P1，P2 または両方にキューアップしたクリップの再生コントロールを行なうパネルです。

パネル上部左から CUEUP，PLAY，STOP ボタンが並びます。
またクリップ名称，サムネイル，再生経過時間，残時間が表示されます。
パネル下部には、VAR 再生ボタンが３つ並びます。スロー再生スピードは環境設定の送出設定で指定します。

“操作”チェックボックスのチェックを外すと PC からの制御が禁止されます。
P1 ポートは MDC-100，P2 ポートは PC から操作という場合は、P1 ポートの操作を禁止します。

MDC-50T が存在する場合は“MDC-50T”ボタンが有効になります。
MDC-50T は通常の場合、編集用リモコンとして動作しますが、“MDC-50T”ボタンをクリックしてアンバー表示にすると送出用リモコンとして使用できます。
もう一度クリックするとアンバー表示が消え、編集用リモコンの動作に戻ります。

※V,KEY 同期再生の場合はスロー再生は禁止されます。

１１．P1／P2 送出パネル

P1，P2 送出パネルを表示することで、メインウインドウから P1，P2 ポートにクリップを直接ロードおよび Jog リモコンから送出ポートを操作できます。

■送出パネルメニュー

・P1 送出パネル　　：P1 送出パネルの表示／非表示を切り替えます
・P2 送出パネル　　：P2 送出パネルの表示／非表示を切り替えます

■環境設定

ファンクションキー，リモコンキーに送出パネル操作用の設定があります。

・P1 PANEL　　：P1 送出パネルの表示／非表示を切り替えます
・P2 PANEL　　：P2 送出パネルの表示／非表示を切り替えます
・P1 SELECT　　：P1 ポートを Jog リモコンで操作可能にします
・P2 SELECT　　：P2 ポートを Jog リモコンで操作可能にします

■送出パネル表示イメージ

■送出パネルの表示／非表示

送出パネルの表示／非表示を切り替える方法として以下の 3 つがあります。

① 送出パネルメニューから“ P1 送出パネル ”,“ P2 送出パネル ”を選択します
② ファンクションキー, リモコンキーに割り当てた“ P1 PANEL ”,“ P2 PANEL ”キーを押します
③ MDC-50T の CUE MODE SEL（テンキーの上）の 1 で P1 送出パネル, 2 で P2 送出パネルの表示切替を行います

表示を選択した場合、以下のような送出パネルが表示されます。（P1 の例）

■各部の名称と機能

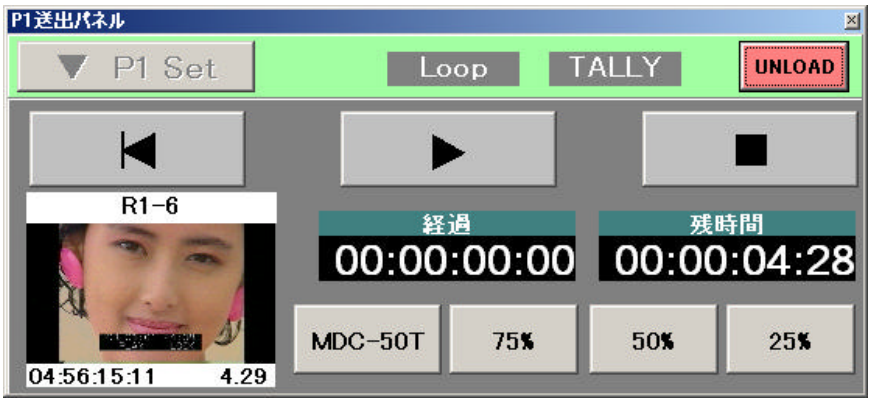
・P1/P2 Set ボタン　：素材エリアで選択しているクリップを送出ポートにロードします
・Unload ボタン　：送出ポートをアンロードします
・CUEUP ボタン　：ロードしているクリップを再キューアップします
・PLAY ボタン　：クリップを再生します
・STOP ボタン　：再生を停止します
・MDC-50T ボタン　：MDC-50T からの操作の有効／無効を切り替えます
・VAR 再生ボタン　：表示されているスピードで VAR 再生します
・Loop 表示　：Loop クリップの場合、黄色で表示されます
・TALLY　：TALLY 信号が入力時に赤で表示されます
・サムネイル　：クリップのサムネイルが表示されます
・経過，残時間　：再生経過，残時間が表示されます

■送出ポートへのクリップのロードと再生

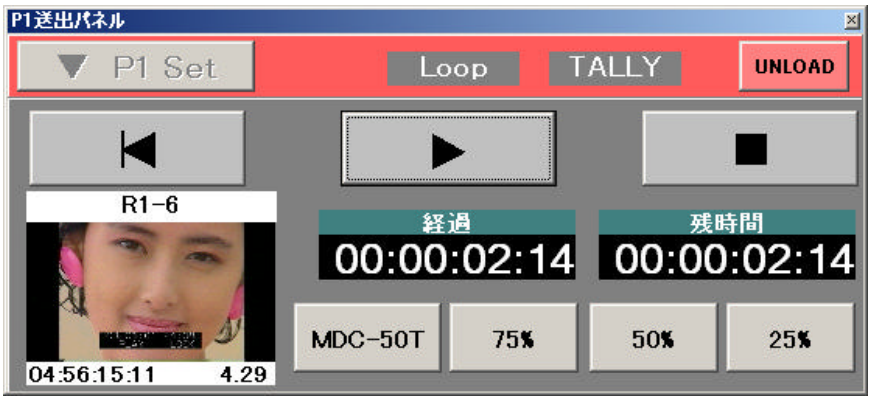
送出ポートへクリップをロードするには以下の３つの方法があります。

①素材エリアでクリップを選択し、“ P1 Set ”または“ P2 Set ”ボタンをクリック
②素材エリアでクリップを選択し、ファンクションキー，リモコンキーに割り当てた“ P1 SET ”，“ P2 SET ”キーを押す
③素材エリアからクリップを送出パネルのサムネイル領域にドラッグ＆ドロップ

クリップがロードされると以下のような表示に変わり、サムネイル，タイトル，クリップ IN 点 TC，デュレーションが表示されます。



再生を開始すると送出パネル上部の背景色が緑から赤に変わります。

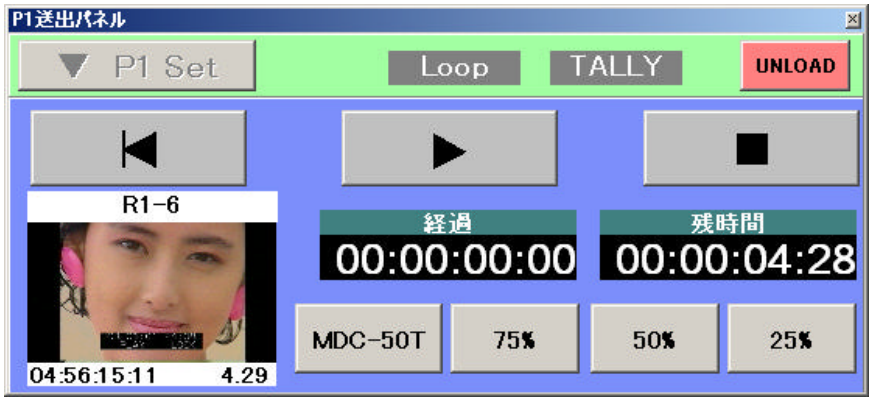


■Jog リモコンからの操作

Jog リモコンからの操作を開始するには、以下の 2 つの方法があります。

① 送出パネルのサムネイル領域またはパネルの下地をマウスクリックします
② ファンクションキーまたはリモコンキーに割り当てた“ P1 SELECT”,“ P2 SELECT ”キーを押します。

Jog リモコンからの操作が有効になると送出パネルが以下のように表示されます。



上図のようにリモコンキーで操作可能なことを背景色で表し、以下の操作が Jog リモコンから可能になります。

・再 CUEUP　：GOTO IN に割り当てたキーで再キューアップします
・PLAY　：PLAY に割り当てたキーで再生します
・STOP　：STOP に割り当てたキーで再生を停止します
・JOG　：Jog 再生します
・SHUTTLE　：Shuttle 再生します

■V，KEY クリップについて

V，KEY 結合されたクリップを P1 送出パネルまたは P2 送出パネルにセットすると、自動的に V クリップを P1 に、KEY クリップを P2 にロードします。

PLAY ボタン，TALLY スタート，Jog リモコンの PLAY キーによる同期再生と STOP ボタン，Jog リモコンの STOP キーによる同期停止が可能です。

Jog リモコンによる JOG 再生や SHUTTLE 再生も可能ですが、SHUTTLE の場合は同期がとれませんのでご注意ください。

また、V，KEY 同期再生するためには MCI-50/MCI-60/MDC-100 のいずれかが必要で、MAV の P1，P2 と 9 ピンケーブルで接続されている必要があります。

１２．編集エリアとハイライト送出

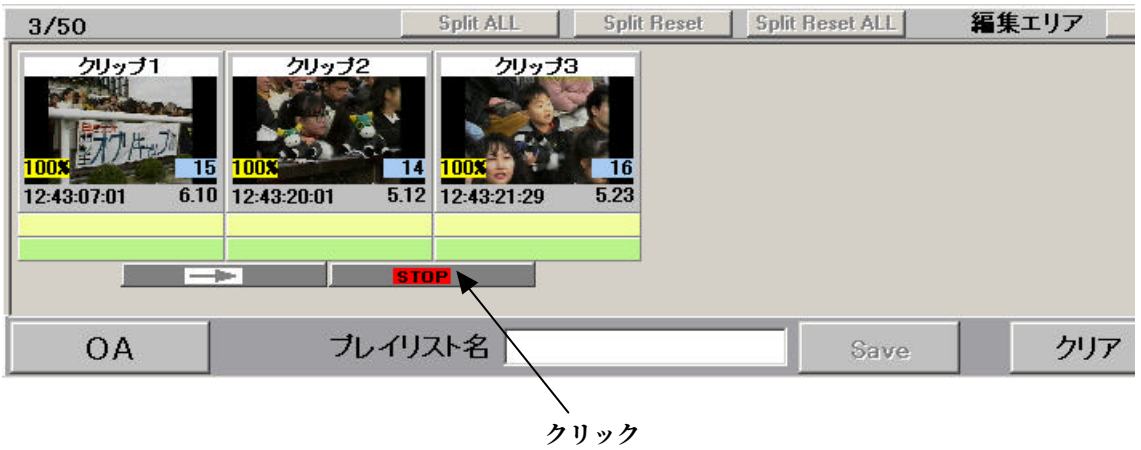
編集エリアでは作成した複数のクリップをつないだり、カットでつながれた VFL を送出することができます。

１２－１．編集エリアへのクリップ登録

上の図のように素材エリアから編集エリアにクリップをドラッグ＆ドロップして登録します。

１２－２．カット間の効果設定

カット間の効果は現バージョンでは“ CUT ”,“ STOP ”のみ選択できます。
環境設定の送出設定でデフォルト設定が変更可能です。



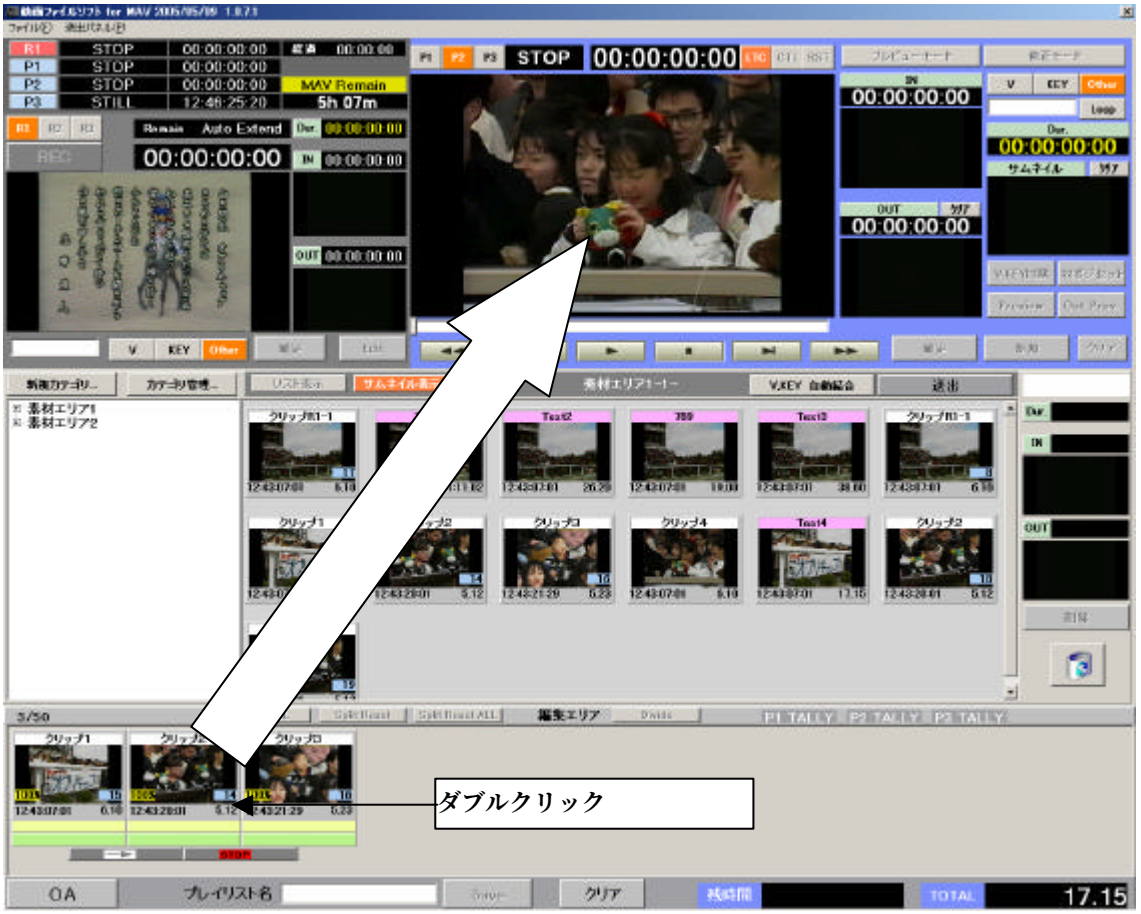
上の図のようにクリップの下の“ CUT ”,“ STOP ”表示パネルをクリックすることで変更できます。

１２－３．クリップの挿入

クリップの挿入は上の図のように挿入したい位置にドラッグ＆ドロップします。挿入ラインが表示されます。ドロップすると下の図のようにクリップが挿入されます。

１２－４．編集エリアのプレビューとトリミング

編集エリアのクリップのプレビューやトリミングを行なう場合は、編集エリアのクリップをダブルクリックするか、プレビューエリアへドラッグします。



編集ポートでキューアップされ、編集エリアで次のように表示されます。

■Edit File をキューアップした場合

編集クリップが緑で表示され、現在プレビュー位置が黄色の枠で表示されます。

■Original File をキューアップした場合

編集クリップが緑で表示されますが、現在プレビュー位置は表示されません。

１２－５．Edit File，Original File の切り替え

“ Edit File ”はカットつなぎの VFL をプレビューするモードです。編集機の Recorder 側にあたります。

“ Original File ”は編集クリップのトリミングをするモードです。編集機の Player 側にあたります。

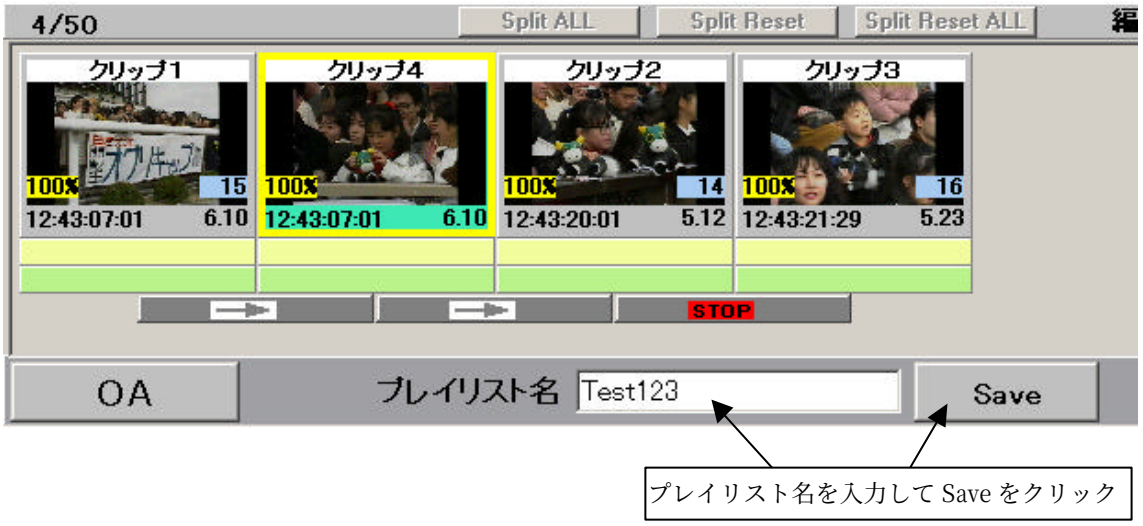
編集エリアのクリップをキューアップしている場合は、図のように“ Edit File ”,
“ Original File ”の切り替えが可能です。

また、“ Original File ”側を見ている場合は、“ 確定 ”ボタンが有効になり編集エリアクリップの修正，確定操作が行なえます。

※“ Edit File ”,“ Original File ”表記は図のように変更が可能です。
INI ファイルにて表記する文字を設定します。

１２－６．編集済み素材として保存

編集エリアに登録したクリップは１つの編集済み素材として保存することが可能です。保存された編集済み素材はあとからポンだしモードや送出モードで再生することができます。



上の図のようにプレイリスト名を入力して“ Save ”ボタンをクリックします。

保存すると表示中のページに１つのクリップとして登録されます。

１２－７．編集エリアからの送出

編集エリアにならべたクリップはそのまま送出ポートで再生することができます。

送出パネルが表示されます

上図のように“ OA ”ボタンをクリックすると“ 送出パネル ”が表示されます。

■送出パネルの説明

- ・送出ポート　：環境設定のポート設定で指定されているハイライト送出ポートが表示されます。
- ・キューアップ＋プレイ　：キューアップ後すぐに再生する場合にセットします。
- ・キューアップボタン　：送出エリアで選択しているクリップをキューアップします。クリップが選択されていない場合は、先頭のクリップがキューアップされます。
- ・プレイボタン　：キューアップされているクリップを再生します。
- ・ストップボタン　：再生をストップします。
- ・MDC-50T ボタン　：MDC-50T で送出ポートを制御します。
- ・VAR 再生ボタン　：表示されているスピードで VAR 再生します。
- ・経過時間　：再生経過時間が表示されます
- ・残時間　：再生残時間が表示されます。次に STOP するまでの残時間となります。
- ・TOTAL　：すべてのクリップのトータルデュレーションが表示されます。

※残時間，経過時間はプリロールタイム（INI ファイルで設定）中の場合、図のように黄色で表示されます。

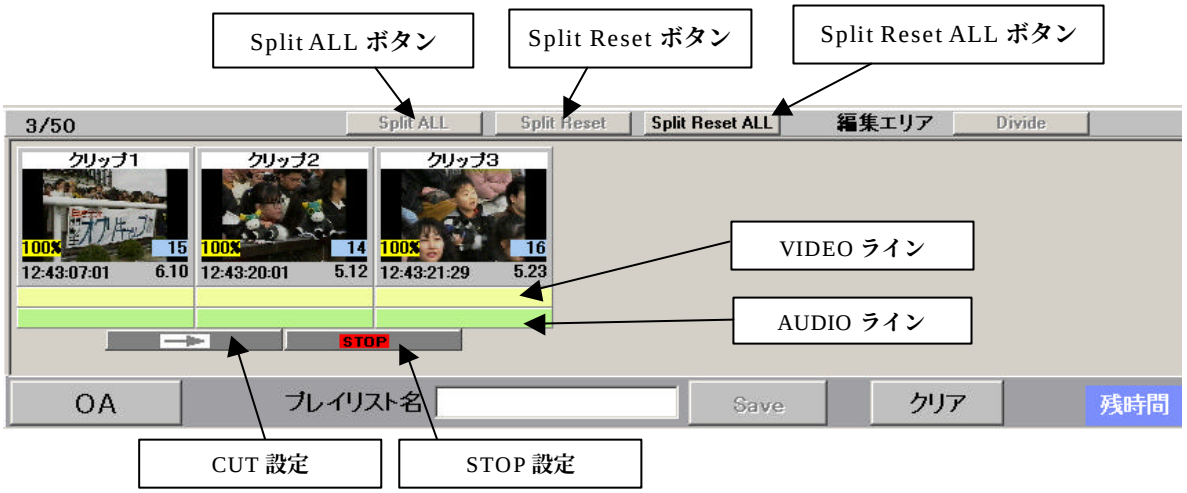
キューアップは送出エリアのクリップをダブルクリックすることでも可能です。キューアップが完了すると，現在位置のクリップが上図のように赤枠で表示されます。再生が進むに従い赤枠も移動します。

１２－８．編集エリアでのスプリット編集

ハイライト編集エリアで簡易タイムライン表示と Video，Audio のクリップ単位でのスプリット編集が可能です。

Audio スプリットは A1234 一括でのみスプリット編集することができます。

■画面イメージ



・Split ALL ボタン

選択しているクリップの Video または Audio ですべてのクリップをスプリットします。

・Split Reset ボタン

選択されているクリップに関連するスプリット設定を解除します。

・Split Reset ALL ボタン

すべてのクリップのスプリット設定を解除します。

・VIDEO ライン，AUDIO ライン

クリップの下に淡い黄色で VIDEO ラインがタイムライン表示されます。

VIDEO ラインの下に淡い緑で AUDIO ラインがタイムライン表示されます。

・CUT 設定，STOP 設定

簡易タイムライン表示を追加したため、若干表示を小さくしました。

■VIDEO スプリット方法

スプリットしたい VIDEO ラインを選択して、スプリット位置までドラッグします。

上図のようにクリップ１の VIDEO が最後のクリップまでスプリットされます。

上記は伸ばした場合の例ですが、縮める場合も同様に縮めたい VIDEO ラインを選択し、縮める位置までドラッグ＆ドロップします。

■AUDIO スプリット方法

VIDEO スプリットの場合と同様に、スプリットしたい AUDIO ラインを選択して、スプリット位置までドラッグします。

上図のようにクリップ１の AUDIO が最後のクリップまでスプリットされます。

上記は伸ばした場合の例ですが、縮める場合も同様に縮めたい AUDIO ラインを選択し、縮める位置までドラッグ＆ドロップします。

■スプリットされているクリップ間へのクリップ挿入

スプリット設定されているクリップ間へ別のクリップを挿入する場合、以下のような編集結果となります。

上図のようにクリップ１からクリップ３まで VIDEO スプリットされていて、クリップ１とクリップ２の間にクリップ４を挿入します。

上図のように VIDEO スプリット設定が残ります。

■スプリットされているクリップの移動（スプリット元が移動された場合）

スプリット設定されていて、スプリット元が移動された場合は以下のような編集結果なります。

上図のようにクリップ１からクリップ３まで VIDEO スプリットされていて、クリップ１をクリップ３の後ろに移動します。

上図のようにスプリット元が移動された場合は、関連するスプリット設定が解除されます。

■スプリットされているクリップの移動（スプリット先が移動された場合）

スプリット設定されていて、スプリット先が移動された場合は以下のような編集結果なります。

上図のようにクリップ１からクリップ３まで VIDEO スプリットされていて、クリップ３をクリップ１の後ろに移動します。

上図のようにクリップ１とクリップ２のスプリット設定が残り、クリップ３へのスプリット設定が解除されます。

■Split ALL 設定方法

選択しているクリップのVIDEOまたはAUDIOですべてのクリップをスプリットします。

スプリットしたい VIDEO ラインまたは AUDIO ラインを選択し、“ Split ALL ”ボタンをクリックします。以下の確認メッセージが表示されます。

■Split Reset 設定方法

選択されているクリップに関するスプリットデータをすべて解除します。

“ Split Reset ”ボタンをクリックします。以下の確認メッセージが表示されます。

■Split Reset ALL 設定方法

設定されているスプリットデータをすべて解除します。

“ Split Reset ALL ”ボタンをクリックします。以下の確認メッセージが表示されます。

■スプリット表示関連の設定

INI ファイル内の以下の設定でスプリットされている VIDEO，AUDIO ラインの表示文字列が設定できます。

INI ファイル：MavSyncPlay.ini

[Program]

LeftSplit=←　　前方スプリットの表示文字

RightSplit=→　　後方スプリットの表示文字

１２－９．編集エリアでのクリップ分割

ハイライト編集エリアに登録されているクリップの分割が可能です。
スプリット編集はクリップ単位でのみ行なうことができますので、スプリットしたい位置でクリップを分割することにより、任意の位置でのスプリット編集が可能になります。

■環境設定

クリップを分割するための操作は、環境設定でファンクションキーまたはリモコンキーに“DIVIDE(分割)”機能を割り当てます。

・環境設定→ファンクションキー
・環境設定→リモコンキー

※MDC-50T の場合は、LCD 下の“AE”キーでクリップを分割します。

■クリップの分割方法

編集エリアで分割したいクリップを選択してキューアップします。
“EditFile”モードまたは“プレビューモード”の場合は、クリップの修正が行なえませんので“OriginalFile”モードまたは“修正モード”にします。

分割したい位置を探して、上記の環境設定で設定したキーまたは“Divide”ボタンをクリックします。

※分割した位置が編集中クリップの OUT 点となり、同時に分割して作成されたクリップの IN 点となります。

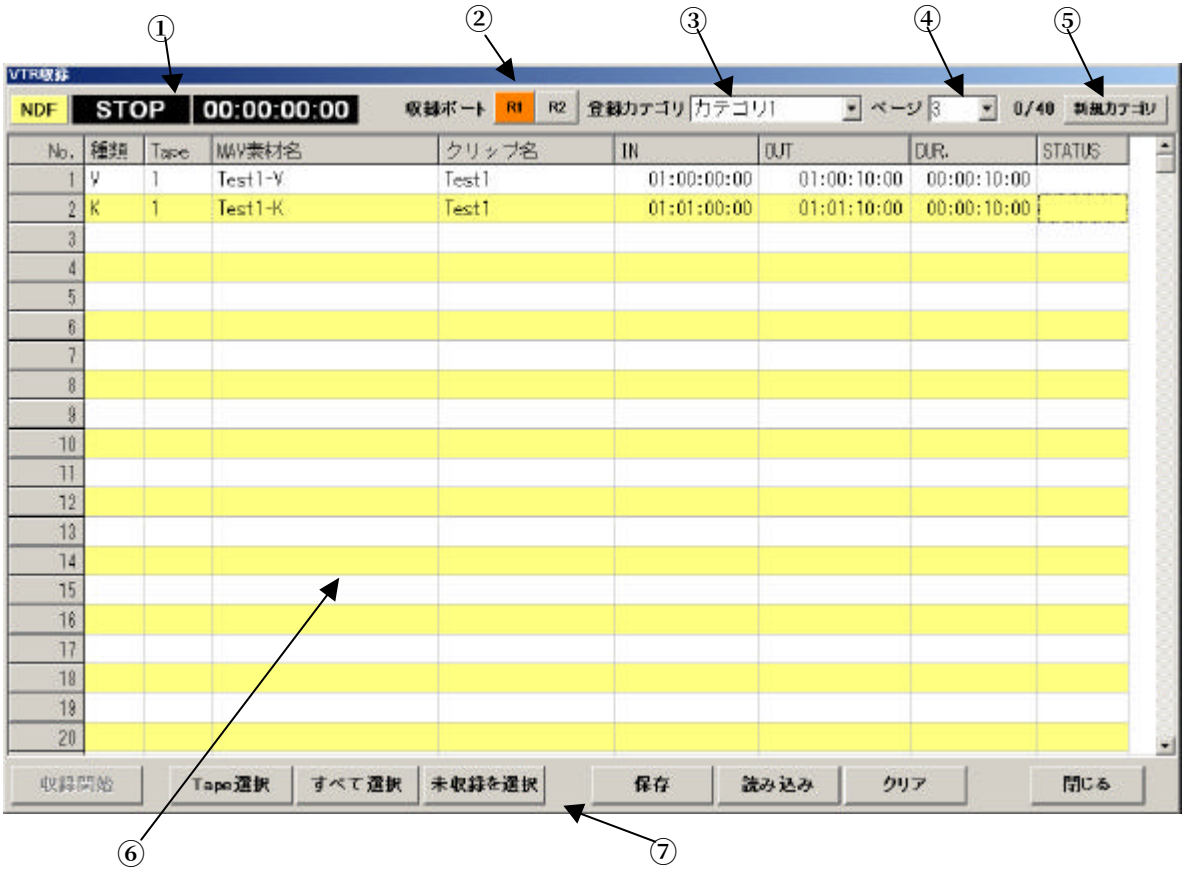
■分割可能範囲

分割可能な範囲はクリップ IN 点＋1 フレームから OUT 点－1 フレームまでの間です。これ以外の位置で分割操作をされた場合は以下のメッセージが表示されます。

１３．VTR 収録

１３－１．VTR 収録モードへの移行

VTR 収録モードへ移行するには、ファイルメニューの“ VTR 収録 ”を選択します。
次の VTR 収録ウインドウが表示されます。



■各部の説明

①VTR ステータス，タイムコード

VTR のステータスとタイムコード，テープのドロップモードが表示されます。

※現在の MAV のバージョンではステータスは“ＳＴＯＰ”と表示されます。

②収録ポート選択

収録ポートを R1，R2 から選択します。

③登録カテゴリ

収録クリップを登録するカテゴリを選択します。

④登録ページ

収録クリップを登録するページを選択します。

⑤収録リスト

収録リストが表示されます。

⑥新規カテゴリボタン

カテゴリを新規に作成します。

⑦ファンクションボタン

- **収録開始/収録停止　：収録の開始と停止を行ないます**
- **Tape 選択　：指定したテープ番号の収録データを選択します**
- **すべて選択　：すべての収録データを選択します**
- **未収録を選択　：未収録の収録データを選択します**
- **保存　：表示中の収録リストを保存します**
- **読み込み　：保存されている収録リストを読み込みます**
- **クリア　：表示中の収録リストをクリアします**
- **閉じる　：VTR 収録モードを終了します**

１３－２．収録データの編集

収録データを編集するには、編集したいセルをダブルクリックまたは Enter キー等で移動してデータを入力します。

■設定項目

- ・種類　　：クリップの種類を選択します
- ・Tape No　　：テープ番号を指定します
- ・MAV 素材名　　：MAV へ収録するファイル名を指定します
- ・クリップ名　　：クリップ名を指定します
- ・IN，OUT，Dur　　：テープの IN，OUT，Dur を指定します

種類に V，KEY を設定すると、クリップ名の後ろにそれぞれ“－V”,“－K”と付加されてクリップ登録されます。
種類フィールドは V，K，O のみ入力可能となっています。

これらの項目の設定を収録クリップ数繰返します。
マウスの右クリックで表示されるポップアップメニューでフィールドのコピー，ペースト，クリアが可能です。
また、No.列をクリックすることで行全体が選択でき、行単位でのコピー，ペーストが可能です。

１３－３．収録の開始と終了

収録クリップデータを設定してから収録を開始します。

■収録クリップの選択

リスト内で収録したいクリップの No.列をクリックします。
または、以下の操作で収録クリップを選択します。
・“Tape 選択”ボタンで指定したテープ番号のクリップを選択
・“すべて選択”ボタンですべてのクリップを選択
・“未収録を選択”ボタンで未収録のクリップを選択

■収録の開始

収録クリップを設定すると“収録開始”ボタンが有効になりますのでクリックします。収録が始まり、“収録停止”とボタン名称が変わります。

■収録の停止

“ 収録停止 ” ボタンをクリックします。

■収録済み素材の削除

収録が済んだクリップのステータス列には、“ 収録済み ” と表示されます。
このクリップ素材を削除したい場合は、クリップ行を選択しポップアップメニューから “ 収録済み MAV 素材削除 ” を選択します。

確認メッセージが表示され MAV から素材が削除され、“ 収録済み ” ステータスが消去されます。

■収録済み MAV 素材名の変更

収録済みの MAV 素材名を変更すると MAV 内のファイル名も変更するか確認メッセージが表示されます。
“ はい ” をクリックすると新しい MAV 素材名称入力ダイアログが表示されます。
ここで、新しいファイル名を入力すると再収録することなく、MAV 内のファイル名が変更できます。

１３－４．収録リストフォーマット

収録リストは保存，読み込みを行なうことができます。収録リストは CSV 形式のフォーマットで 1 行に１クリップのデータとして以下のフィールドで構成されます。

INI ファイルの設定により、次の 2 つのフォーマットが選択できます。

INI ファイル：MavSyncPlay.ini
[VTR REC]
CsvFormat=0　**または**　1

■フィールド構成１（CsvFormat=0 **の場合**）

- **テープ番号**
- MAV **素材ファイル名**
- **カテゴリ名**
- **クリップ名**
- **種類**（V：0，KEY：1，Other：2）
- IN **点タイムコード**
- **デュレーション**

■フィールド構成２（CsvFormat=1 **の場合**）

- **テープ番号**
- **クリップ名**
- **種類（“Ｖ”,“Ｋ”,“Ｏ”のいずれか　何も指定しない場合は“Ｏ”）**
- IN **点タイムコード**
- OUT **点タイムコード**
- **デュレーション**（OUT **または** Dur **のどちらかで** OK）

１５．管理者モード

Windows レジストリを設定することにより、管理者モードメニューが表示され、管理者モードでログインするまで、“ 環境設定 ”, “ 素材管理 ”, “ カテゴリ管理 ” を行なえないように制限することできます。

※特に管理者制限設定しない場合は、全ての機能が使用可能です。

■レジストリ設定

以下の Windows レジストリを設定することで管理者制限運用を行なうか設定します。

・HKEY_CURRENT_USER¥SoftWare¥Musashi¥MavSyncPlay¥MenteMode

上記キーの値が 0 の場合はこれまで通りすべてのユーザーがすべての機能を使用することができます。

上記キーの値が 1 の場合は、メインメニューに “ 管理者モード ” メニューが追加され、管理者モードでログインを行なわないと以下の操作ができなくなります。

・環境設定メニュー
・素材管理メニュー
・カテゴリ管理機能

■管理者モードメニュー

以下のサブメニューがあります。

・ログイン　　：管理者モードでログインします
・ログアウト　　：管理者モードを終了します
・パスワード変更　：ログインパスワードを変更します

※ログアウト，パスワード変更メニューは管理者モードでログイン後に有効になります。

※ログインメニューは管理者モードでない場合に有効になります。
ログインメニューを選択するとパスワード入力ダイアログが表示され、正しいパスワードを入力するとログインできます。

■管理者モード表示

管理者モードでログインしている場合は、画面上部に次のような表示がされます。

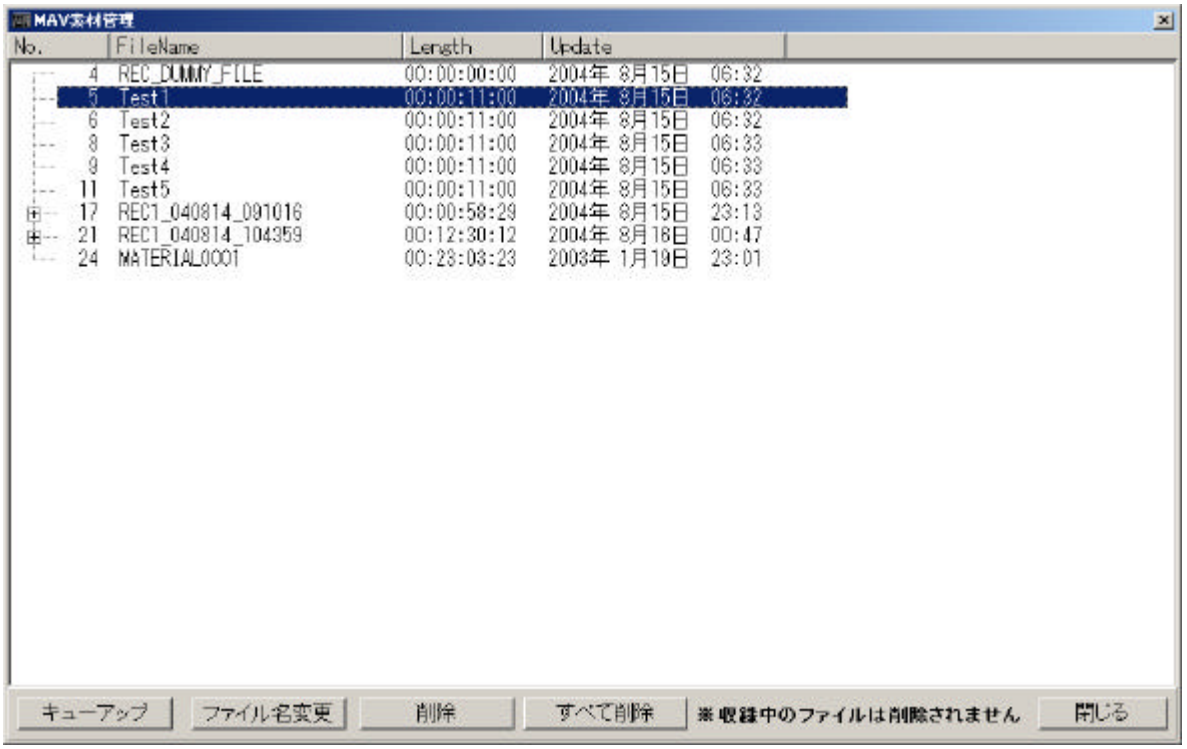
ログアウトを行なうと上記の表示が消えます。

１６．MAV 素材管理

MAV 内のファイル管理を行います。

設定メニューから“ MAV 素材管理 ”を選択します。

次のウインドウが表示されます。



■表示内容

- ファイル No.　：MAV が管理しているファイル番号
- FileName　：MAV ファイル名
- Length　：ファイルの長さ
- Update　：更新日時

上図のように REC 中の素材は“ R1 収録中 ”と表示されます。

ファイル名をダブルクリックすることで、このファイルを元素材として登録されているクリップの一覧がカテゴリ名，クリップ名の順番で階層表示されます。

■ファイルの削除

ファイルを削除するには、削除したいファイルを選択して“ 削除 ” ボタンを押します。確認メッセージが表示され、“ はい ”をクリックするとファイルが削除されます。ファイルを削除すると、このファイルを素材として使用しているクリップはすべて削除されます。

■すべてのファイル削除

すべてのファイルを削除する場合は“ すべて削除 ” ボタンを押します。
確認メッセージが表示されすべてのファイルと関連するクリップが削除されます。

※収録中のファイルは削除されません。

■収録済み素材からのクリップ作成

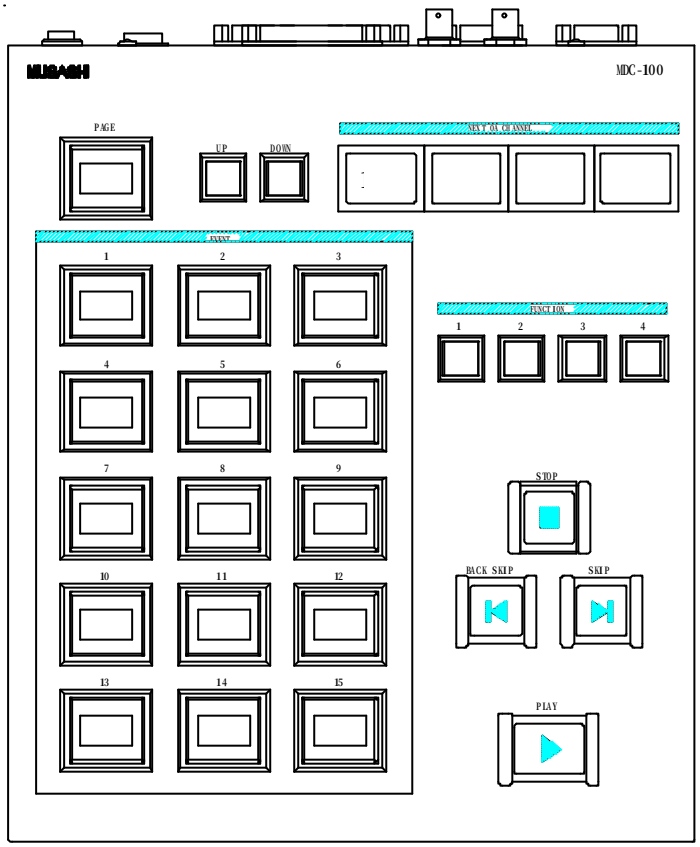
収録済みの素材からクリップを作成する場合は、素材管理画面で素材名を選択して“ キューアップ ” ボタンをクリックします。
現在選択しているプレビューポートにキューアップされます。

プレビューポートでキューアップしてから、IN, OUT を設定してクリップを作成します。

■ファイル名の変更

MAV 内のファイル名を変更する場合は変更したいファイル名を選択し、“ ファイル名変更 ” ボタンをクリックします。
ファイル名変更ダイアログが表示され新規ファイル名が設定できます。

１７．MDC-100 外観

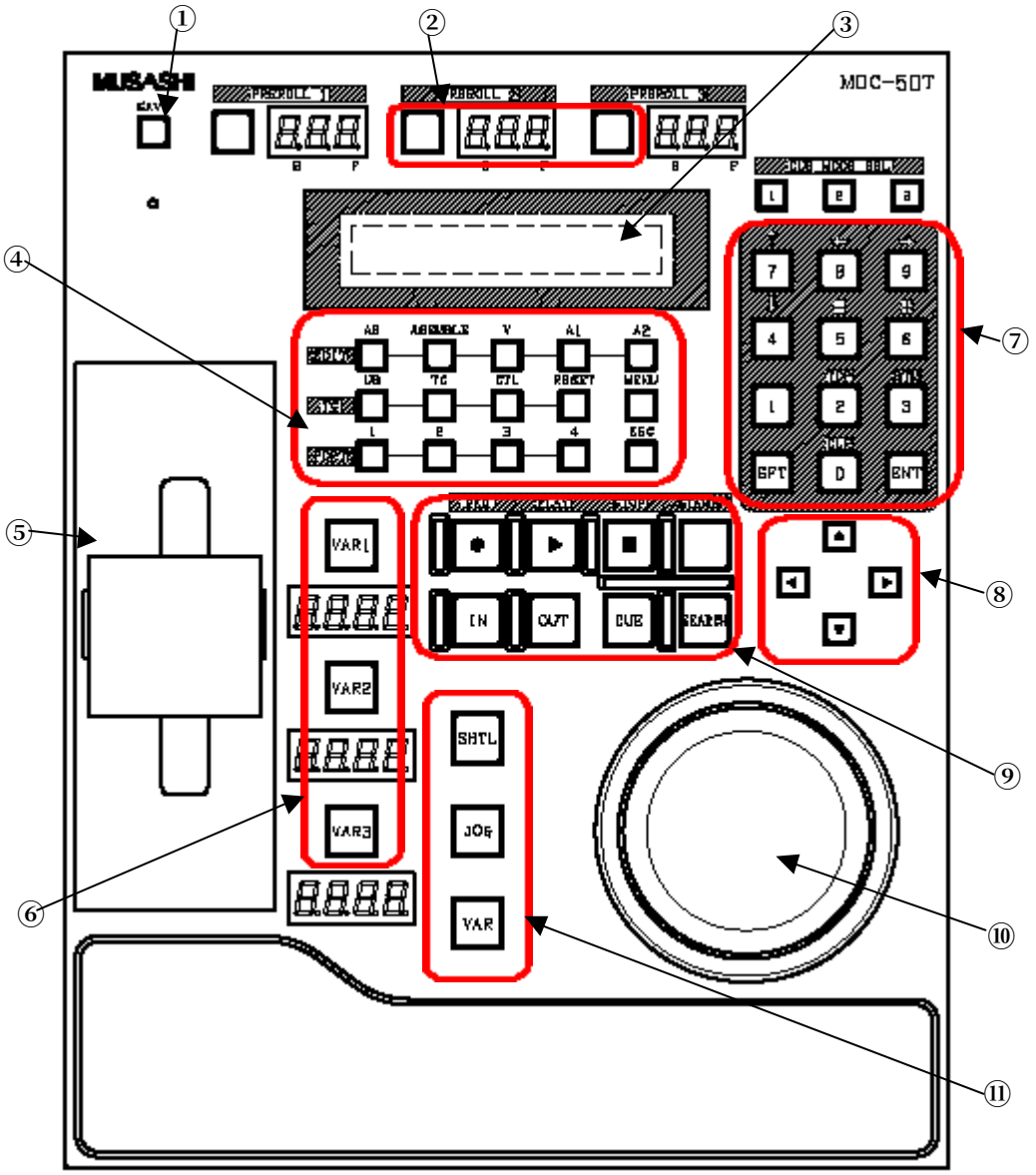


■各部の説明

- ・ページキー　：現在のページを表示します
- ・UP，DOWN　：ページの UP，DOWN を行ないます
- ・OACHANNEL LED　：表示機能がカスタマイズ可能な LED です（オプション）
- ・EVENT キー　：キーに割り当てられているクリップ名が表示され、キーを押すことでキューアップされます
- ・FUNCTION キー　：機能がカスタマイズ可能なキーです（オプション）
- ・PLAY キー　：キューアップしているクリップをプレイします
- ・STOP キー　：再生をストップします
- ・BACK SKIP キー　：前のクリップをキューアップします
- ・SKIP キー　：NEXT クリップをキューアップします

１８．MDC-５０T

■外観とキーアサイン



①MDC-50T 操作の許可／禁止（Save）

選択しているプレイヤーポート操作を許可／禁止するキーです。

許可されている場合は点灯，禁止されている場合は消灯します。

②ライブモード，プレビューモードの切り替え（Preroll2，Preroll3）
Preroll2 でライブモードに移行し、Preroll3 でプレビューモードに移行します。
選択されているモードのキーが点灯します。

③液晶パネル
アプリケーションのバージョンが表示されます。

④ポート選択，エスケープ（PORT1,2,3,4、ESC），クリップ分割，再キューアップ
モニターポート，操作ポートの選択を行ないます。選択しているポートのキーが
点灯します。

■2IN／2OUT 構成の場合
- PORT1　：R1 ポートをモニターします
- PORT2　：R2 ポートをモニターします
- PORT3　：P1 ポートを制御およびモニターポートを切り替えます
- PORT4　：P2 ポートを制御およびモニターポートを切り替えます

■1IN／3OUT 構成の場合
- PORT1　：R1 ポートをモニターします
- PORT2　：P1 ポートを制御およびモニターポートを切り替えます
- PORT3　：P2 ポートを制御およびモニターポートを切り替えます
- PORT4　：P3 ポートを制御およびモニターポートを切り替えます

ESC キーはタイムコードの直接入力をキャンセルします。
AE キーでクリップの分割を行います。
V キーで送出用にロードしているクリップを再キューアップします。（再キューアップ可能な場合に点滅します）

⑤T-BAR
プレイヤーが VAR モードの時に操作可能です。

⑥VAR1，2，3
環境設定，送出設定で設定されている再生スピードで再生します。

⑦テンキー，エンター
タイムコードを直接入力する場合に使用します。ENT キーで確定します。

⑧矢印キー

・左矢印キー　　：GOTO IN と同じ
・右矢印キー　　：GOTO OUT と同じ
・上矢印キー　　：IN Prev. と同じ
・下矢印キー　　：OUT Prev. と同じ

⑨REC，PLAY，STOP，MARK IN，MARK OUT，確定，新規

・REC キー　　：選択しているレコーダーポートの REC 開始／終了
・PLAY キー　　：選択しているプレイヤーポートの PLAY
・STOP キー　　：選択しているプレイヤーポートの STOP
・IN キー　　：MARK IN キーと同じ
・OUT キー　　：MARK OUT キーと同じ
・CUE キー　　：確定ボタンと同じ
・SEARCH キー　：新規ボタンと同じ

⑩JOG/SHUTTLE/VAR ダイアル

選択しているプレイヤーポートで JOG/SHUTTLE/VAR 操作を行ないます。

⑪JOG，SHUTTLE，VAR 切り替え

ジョグダイアルのモードを切り替えます。
VAR モードにすると T-BAR 操作が可能になります。

１９．データフォルダ

１９－１．データフォルダ

クリップ情報，サムネイル等のデータはマイドキュメントフォルダ内の
“ MAV 動画ファイル ”フォルダ内に作成されます。
さらに MAV-555 の場合は“ MAV-555 ”，MAV-777 の場合は“ MAV-777 ”フォルダの下にシリアル番号フォルダが作成され、このフォルダの中にデータが保存されます。

２０．MAV メニュー設定

■MAV の設定

MAV のメニュー設定は以下のようにしてください。
数字はメニュー番号です。

・012	DROP FRAME MODE	環境設定と合わせる
・019	OP CONFIG	PANEL
・220	IP ADDRESS	環境設定と合わせる
・221	SUBNET MASK	255.255.255.0
・352	REC INHIBIT R1	INHI OFF
・404	AFTER UNLOAD P1	PB※
・405	AFTER UNLOAD P2	PB※
・406	AFTER UNLOAD P3	PB※
・633	TCG MODE R1	REGEN MODE　TC
		INT/EXT　EXTERNAL
		REC/FREE　FREE RUN
・642	PB TC REPLACE P1	OFF
・643	PB TC REPLACE P2	OFF
・644	PB TC REPLACE P3	OFF
・670	LTC SELECT R1	SYSTEM TC

012 と 220 は、環境設定→MAV 設定と合わせてください。
MAV メニュー設定を変更した場合は、MAV を再起動してください。
環境設定の MAV 設定を変更した場合は、アプリケーションを再起動してください。

※404，405，406 はクリップをキューアップする時に BLACK が出力されないようにするため（直前の映像 STILL）の設定です。
意図して BLACK を出力したい場合は、この設定を BLACK にしてください。

本ソフトウェアでは、編集中でないのにプレビューエリアに映像が表示されるのを避けるために、編集中でない場合は“ @BLACK_FILE@ ”という BLACK 素材ファイルをロードするようにしていますが、INI ファイルの“ BlackLoad ”パラメータで設定可能です。（BlackLoad=1 で BLACK 素材をロード，BlackLoad=0 で UNLOAD のみ）